

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2025年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業262社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業42、運輸・倉庫業20、観光業45
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：152社（58.0%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－業況DI、売上DIはプラス水準であったが採算DIはマイナスに転じ、約4割の企業で従業員不足－
前年同期（2024年4月～6月）と比べた今期（2025年4月～6月）の状況
今期と比べた来期（2025年7月～9月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは5.0で、前年同期比で2.4ポイント上昇しました。主要3項目の業況DIは12期連続、売上DIは13期連続でプラス水準で推移しましたが、採算DIは3期ぶりにマイナスに転じました。また、卸売業を除く全ての業種で、経営上の問題点の上位3位までに、「従業員確保難」を挙げており、回答企業の41.4%で従業員が不足しています。

来期は、業況DI、売上DI、採算DIの主要3項目全ての低下が予想されています。

製造業では、売上DIが前年同期比6.7ポイント低下の0.0、採算DIは同35.5ポイント低下の▲22.6でマイナスに転じました。業況DIは同23.0ポイント低下の▲9.7ポイントとなりマイナスに転じました。

卸売業では、売上DIが同7.1ポイント低下の▲13.4、採算DIは同24.7ポイント上昇の▲6.6、業況DIは同25.5ポイント上昇し6.7となりプラスに転じました。売上単価DIについては同35.8ポイントと大幅に低下し26.7となりました。

小売業では、売上DIが同21.7ポイント低下の0.0、採算DIは同54.4ポイント低下の▲35.6でマイナスに転じました。業況DIは同34.0ポイント低下の▲15.8となりマイナスに転じました。在庫数量DIについては同24.2ポイント低下し▲10.5となりマイナスに転じました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同47.4ポイント上昇の27.4でプラスに転じました。採算DIは同39.9ポイント上昇の26.6でプラスに転じました。業況DIは同26.6ポイント上昇の26.6となりプラスに転じました。在庫量DI、出庫量DI、保管残高DI、すべての項目で50.0ポイント以上の大幅な上昇となりました。

観光業では、売上DIが同12.4ポイント上昇の24.2、採算DIは同2.4ポイント上昇の▲3.5、業況DIは同2.4ポイント低下の3.5となりました。

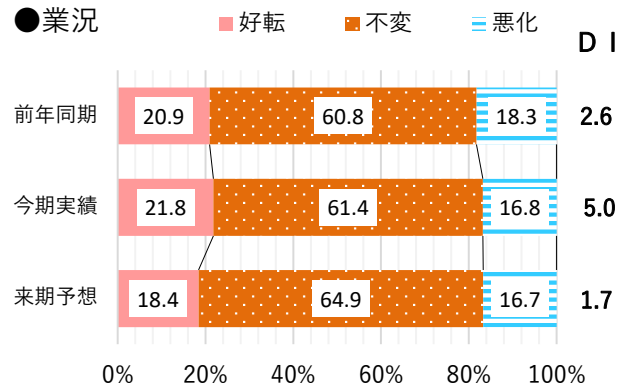
サービス業では、売上DIが同28.9ポイント上昇の48.0、採算DIは同33.0ポイント上昇の28.0となりプラスに転じました。業況DIは同24.0ポイント上昇の24.0となりプラスに転じました。利用客数DIについては同51.0ポイントの大幅な上昇で、32.0ポイントとなりプラスに転じました。

建設業では、売上DIが同3.2ポイント低下の5.5、採算DIは同6.3ポイント上昇の▲11.1、業況DIは前年同期と比べ変化はなく、0.0ポイントとなりました。

業況、売上、採算

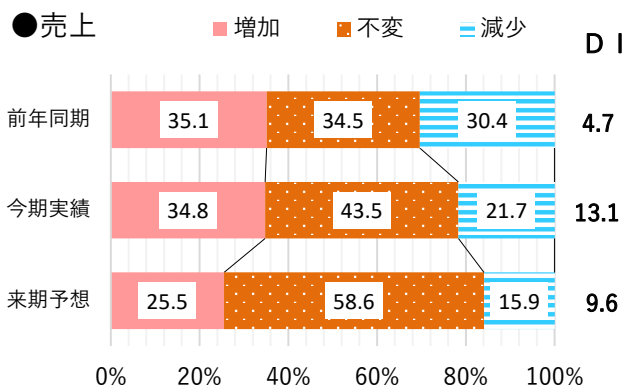
今期（2025.4～6）の業況判断DIは5.0で、●業況
前年同期（2024.4～6）と比べ2.4ポイント
上昇しました。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期
（2024.4～6）と比べ3.3ポイント低下する
と予想しています。



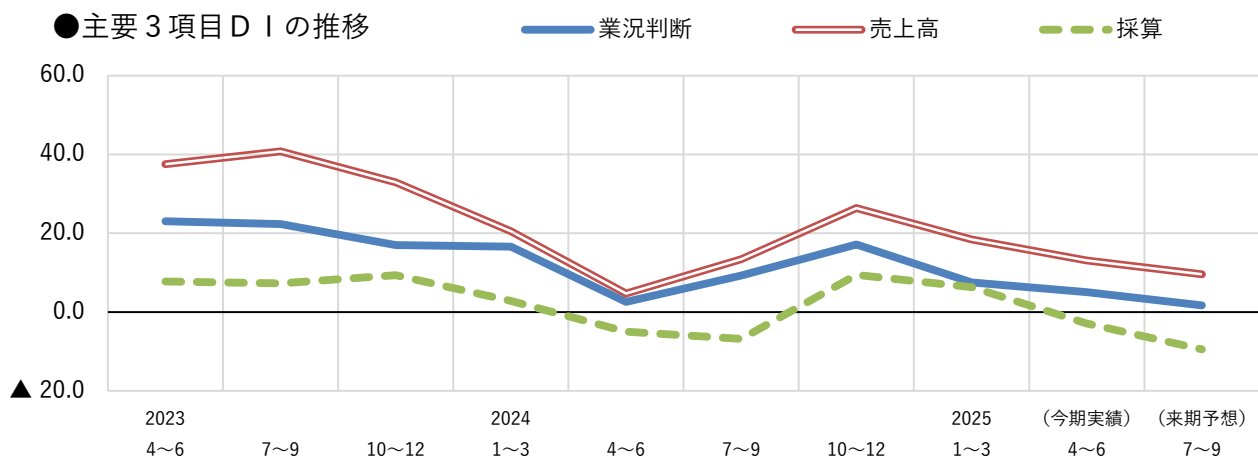
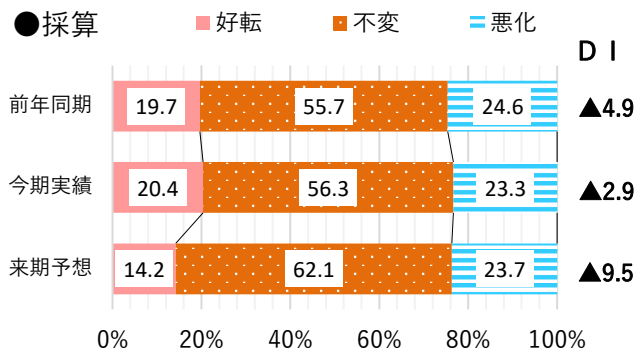
今期の売上DIは13.1で、前年同期と比べ
8.4ポイント上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ3.5ポイント低
下すると予想しています。



今期の採算DIは▲2.9で、前年同期と比
べ2.0ポイント上昇しました。

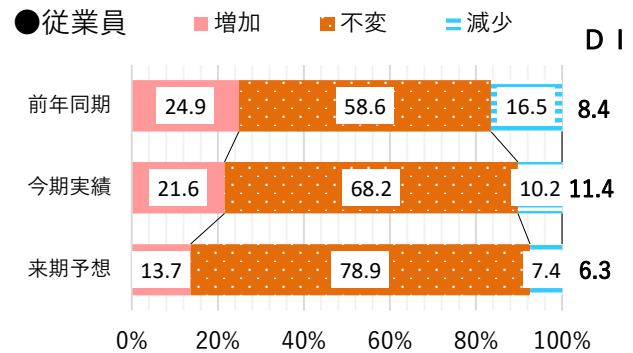
来期の採算DIは今期と比べ6.6ポイント
低下すると予想しています。



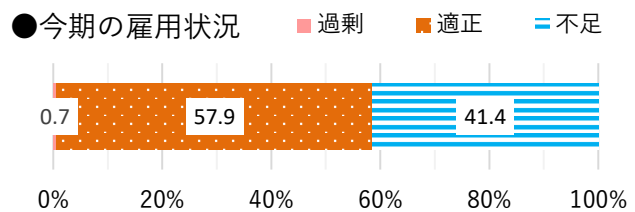
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは11.4で、前年同期と比べ3.0ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.1ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は0.7%、適正であると回答した企業の割合は57.9%、不足していると回答した企業の割合は41.4%でした。



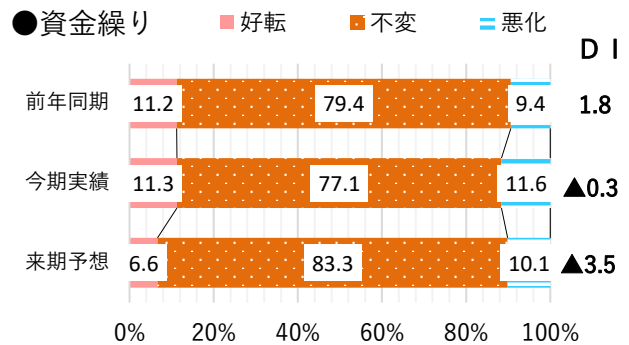
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、43.4%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	18
	不足	16
不変だった	過剰	0
	適正	66
	不足	36
減少した	過剰	1
	適正	4
	不足	11

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲0.3で、前年同期と比べ2.1ポイント低下しました。

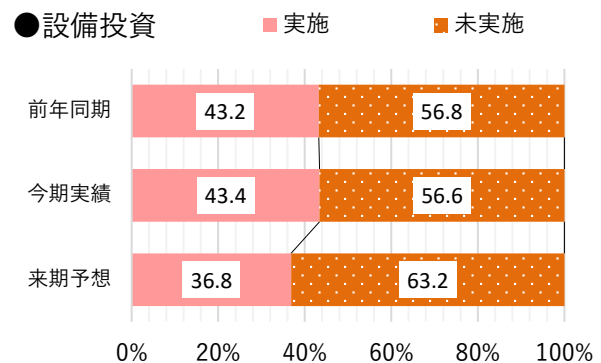
来期の資金繰りDIは今期と比べ3.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は、43.4%が実施と回答し、前年同期と比べ0.2%上昇しました。

投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」、3位が「付帯施設」「建物」(同位)の順です。

来期は36.8%が設備投資を計画していると回答しています。

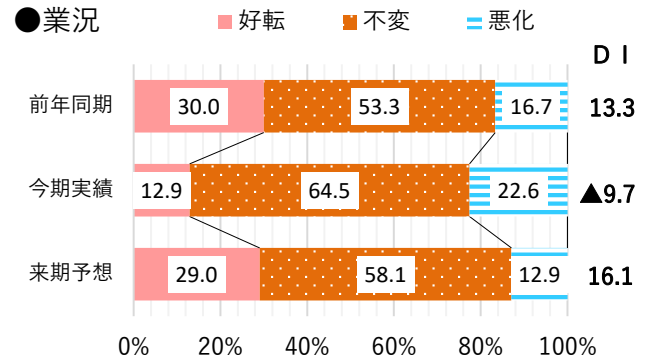


製造業

業況、売上、採算

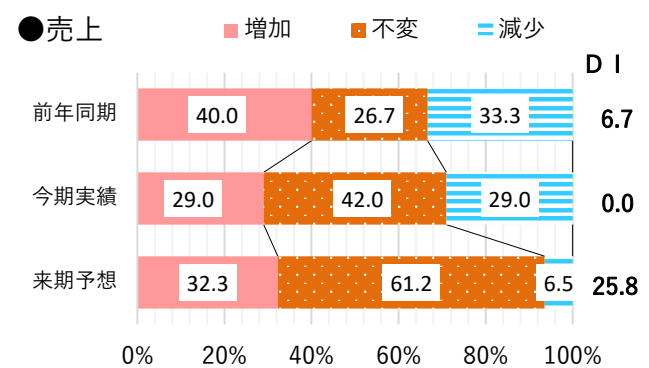
今期（2025.4～6）の業況判断DIは▲9.7で、前年同期（2024.4～6）と比べ23.0ポイント低下しました。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期（2025.4～6）と比べ25.8ポイント上昇しています。



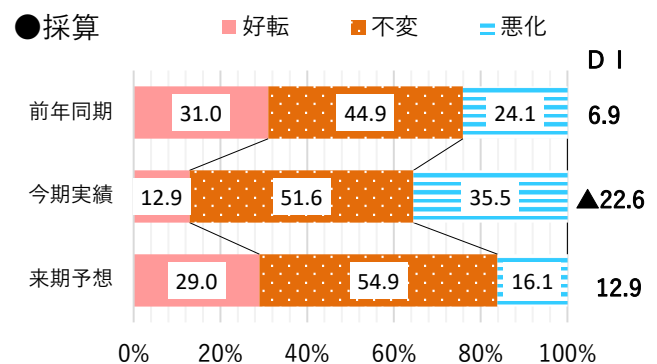
今期の売上DIは0.0で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ25.8ポイント上昇すると予想しています。

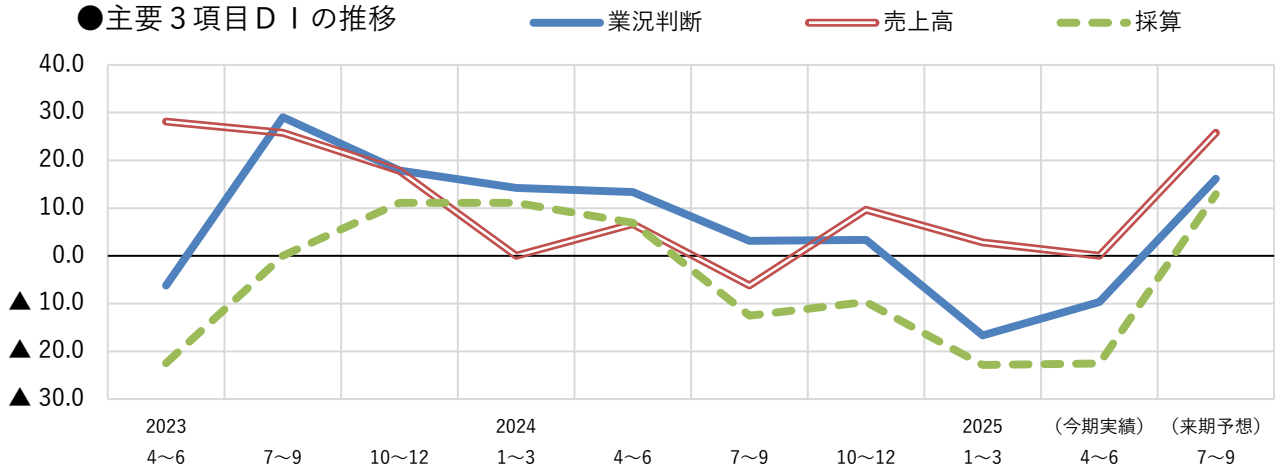


今期の採算DIは▲22.6で、前年同期と比べ29.5ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ35.5ポイントと大幅に上昇すると予想しています。



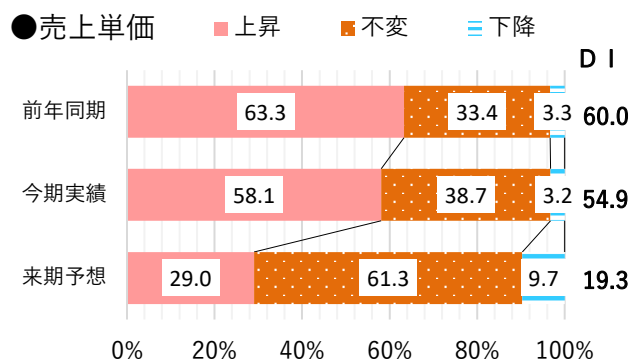
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

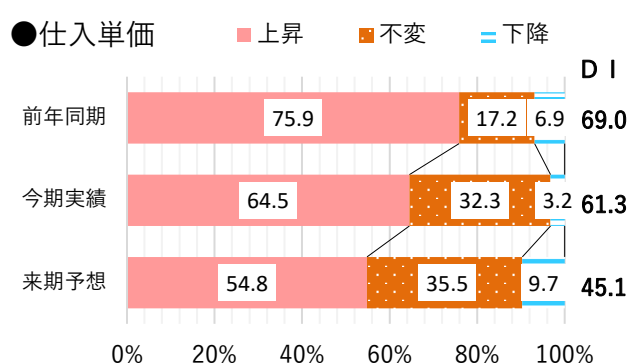
今期の売上単価DIは54.9で、前年同期と比べ5.1ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ35.6ポイントと大幅に低下すると予想しています。



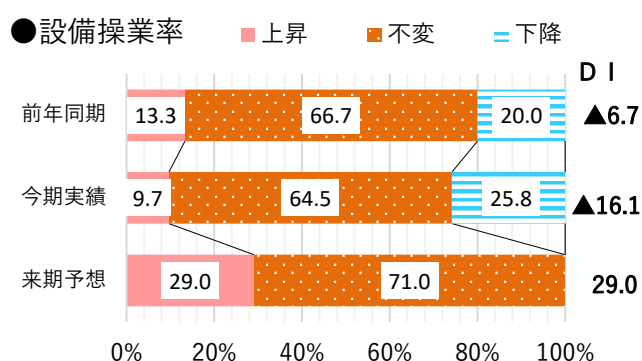
今期の仕入単価DIは61.3で、前年同期と比べ7.7ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ16.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲16.1で、前年同期と比べ9.4ポイント低下しました。

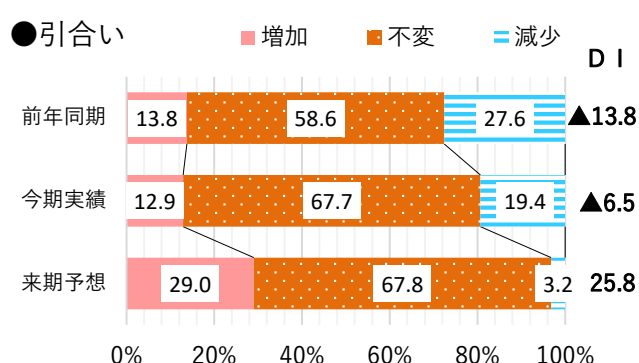
来期の設備操業率DIは今期と比べ45.1ポイントと大幅に上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲6.5で、前年同期と比べ7.3ポイント上昇しました。

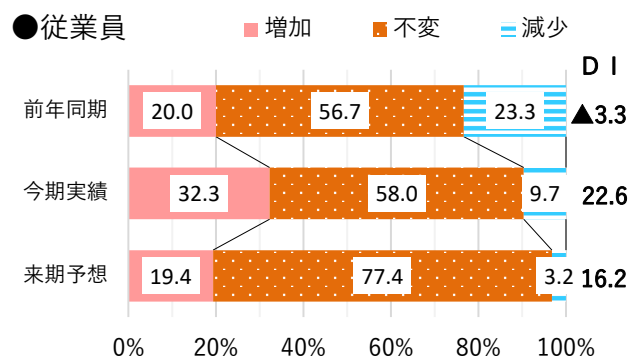
来期の引合いDIは今期と比べ32.3ポイントと大幅に上昇すると予想しています。



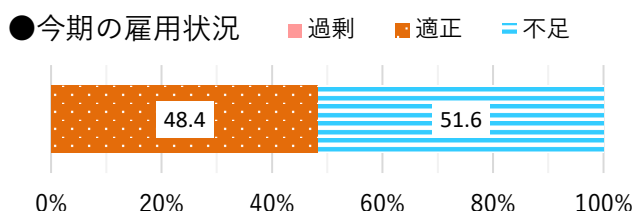
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは22.6で、前年同期と比べ25.9ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ6.4ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は48.4%、不足していると回答した企業の割合は51.6%でした。



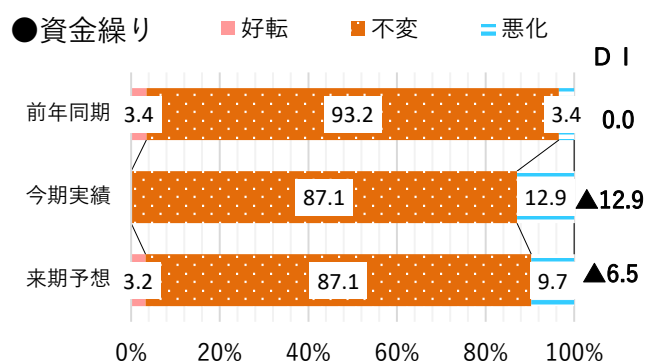
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、32.3%を占めました。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	6
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

資金繰り、設備投資

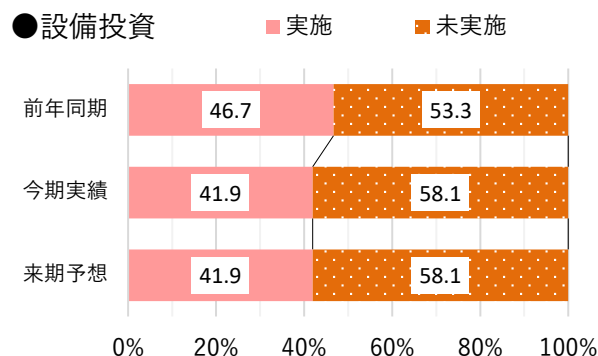
今期の資金繰りDIは▲12.9で、前年同期と比べ12.9ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ6.4ポイント上昇すると予想しています。



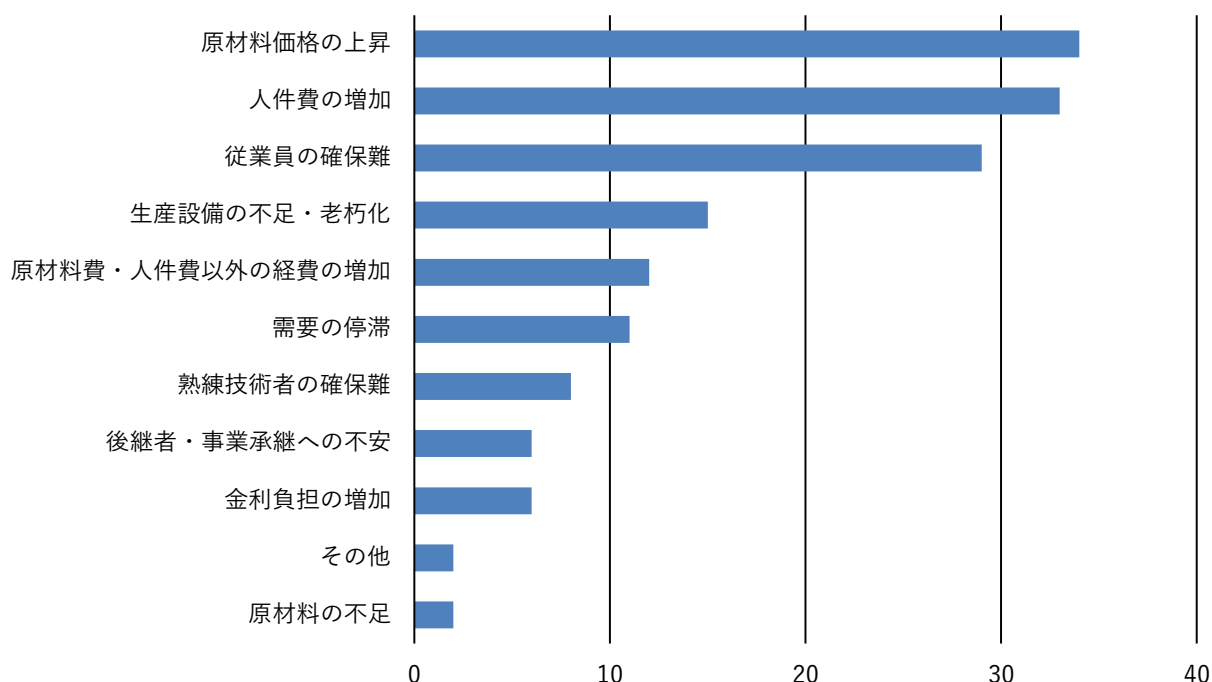
今期の設備投資は41.9%が実施と回答し、前年同期と比べ4.8%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期は41.9%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

■2025年の2月と3月に、夏季商材を中心にカテゴリー別に価格改定を実施し、店頭の販売価格も想定した販売価格よりも上昇した。主食の米、野菜の販売価格が大幅に上昇した影響によるものだと考えられるが、消費者の財布の紐は固く、嗜好品の購買は控えられたと推測する。仕入れ価格に関しても、原材料、副原料、包装資材等全てにおいて上昇傾向が見られ、業況悪化の要因になっている。

(食料品)

■塩数の子製品と加工食品の製造販売が中心だが、コストの高止まりで苦戦した。(食料品)

■人件費、物流費、原材料費が上昇した。(食料品)

■生産量が増えているため、売上が上昇し、増産に伴う設備投資をしている。従業員数は増加したが、希望人数には至っていない。(食料品)

- 製品の値上げ効果で粗利率がやや改善した。（食料品）
- 全てのものが価格上昇している。（食料品）
- 大型案件のほぼすべてにおいて着工時期遅れが発生しており、当初の計画通りに進まないの、売上計上額に大きく影響している。（金属製品）
- 賃金のアップが実施できないと、従業員の生活の保証及び人材確保が難しいのが大変である。
（金属製品）
- 加工単価の改定を行った。（金属製品）
- 売上苦戦を強いられている中で、平均4.4%の賃上げを実施できた。（飲料）
- 売上高は農業分野で買い控えが発生しており、農業製品価格が上昇せず農家負担が増加している。仕入価格は、原油価格高止まりで主要原料価格が上昇している。製品仕入価格は仕入先の労務費、物流費等を受け入れているため上昇している。また、人材確保の面では、2名採用しギリギリながら何とか企業活動を維持できている。今期賃上げを実施。（プラスチック）
- 原材料の仕入れ価格の高騰、人件費の上昇等があるも、販売価格への転嫁が遅れた。（プラスチック）
- 売上高の減少に伴い収支が悪化した。（紙製品）
- 総ゴム製の靴と安全靴等の変化はなかったものの、工業用ゴム製品の低調が業績に響いた。
（ゴム製品）
- 仕入価格が上昇し、資材の入荷が遅れている。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

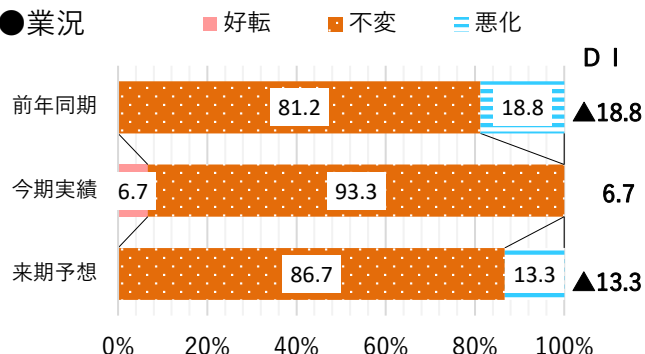
- コロナが明けてからの社会の動きが活発になるとともに、引き合いも増えPB商品の受注が増えている。人員問題に関しては非常に逼迫しているため、時給単価の改定や求人媒体への投資を増やしているが希望の人材までは集まらない現状であり、増産体制に伴い、人員確保は問題である。（食料品）
- 来季の状況も今期の傾向の延長線上にあり、業況の回復、好転は望めないし、今秋の最低賃金の上昇は業況悪化に一層の拍車を掛けると推測される。（食料品）
- 数の子製品は9月以降から年末に向かって出荷が増加するため、業況は好転する見通し。（食料品）
- 製品の値上げ効果で粗利は改善するが仕入価格の更なる上昇がありそう。（食料品）
- 人件費、物流費、原材料費の上昇を予測する。（食料品）
- 大型案件が遅れながらも動き出してきており、やや明るい見通しにある。原材料価格は一時的かもしれないが、落ち着いた状況が続いている。（金属製品）
- 受注単価が下がってきているので、大変である。（金属製品）
- 加工単価の上昇以外は不変と予測する。（金属製品）
- インバウンドの増加に伴い、市場も緩やかに回復傾向にあり売上増加が見込まれる。（飲料）
- 売上高は買い控えから一部回復すると予想。仕入価格は、原油価格高止まりで主要原料価格が上昇、製品仕入れ価格は仕入先の労務費、物流費等を受け入れているため上昇。人材確保は2名採用しギリギリながら何とか企業活動を維持できている。今期賃上げを実施。（プラスチック）
- 給与ベースアップの実施も実らず、人材確保が難しいので本格的に外国人の採用を考える。
（プラスチック）
- 売上高増加を見込んでいる（紙製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

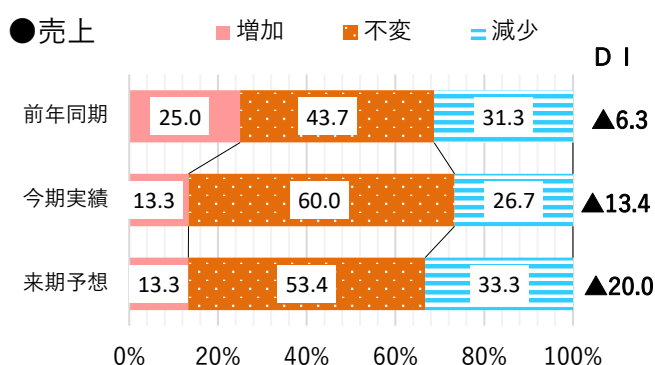
今期（2025.4～6）の業況判断DIは6.7で、●業況
前年同期（2024.4～6）と比べ25.5ポイント
上昇しました。

来期（2025.7～9）業況DIは今期（2025.4
～6）と比べ20.0ポイント低下し、マイナス
に転じると予想しています。



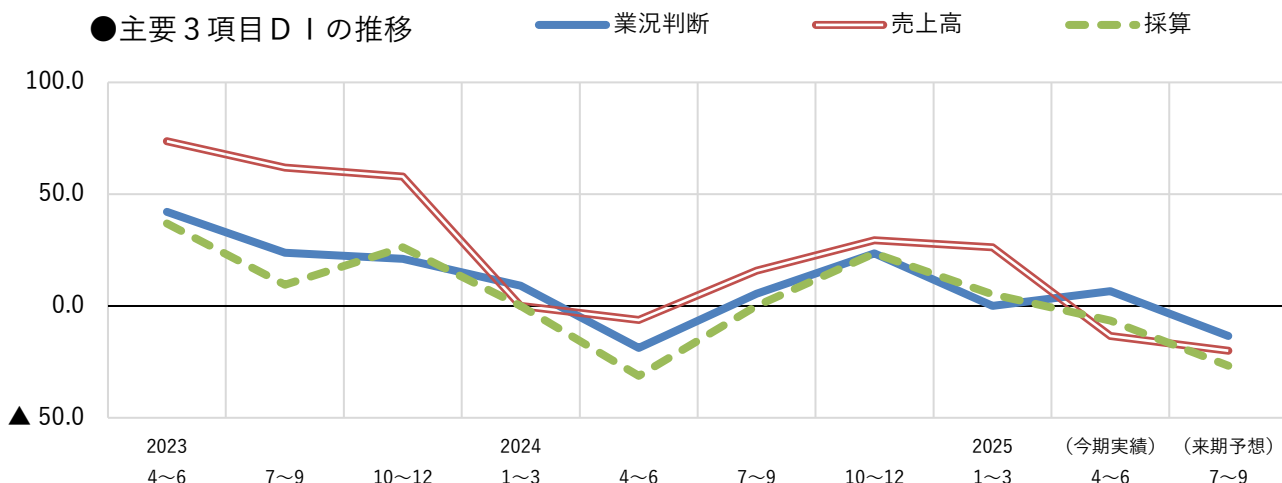
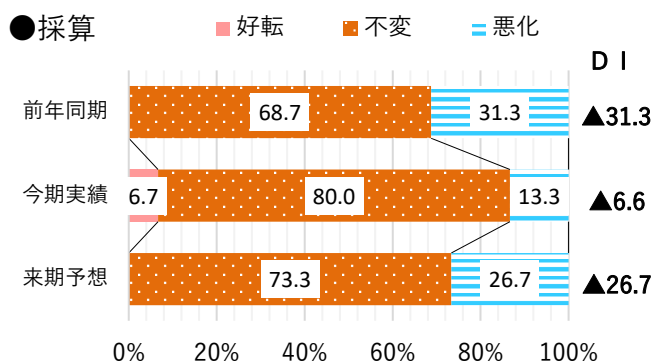
今期の売上DIは▲13.4で、前年同期と
比べ7.1ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ6.6ポイン
ト低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲6.6で、前年同期と
比べ24.7ポイント上昇しました。

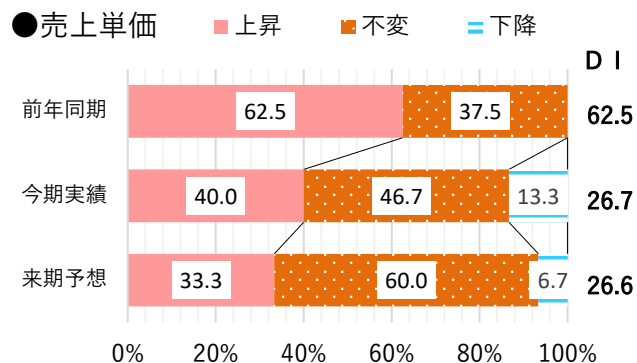
来期の採算DIは今期と比べ20.1ポイン
ト低下すると予想しています。



売上単価、商品仕入単価

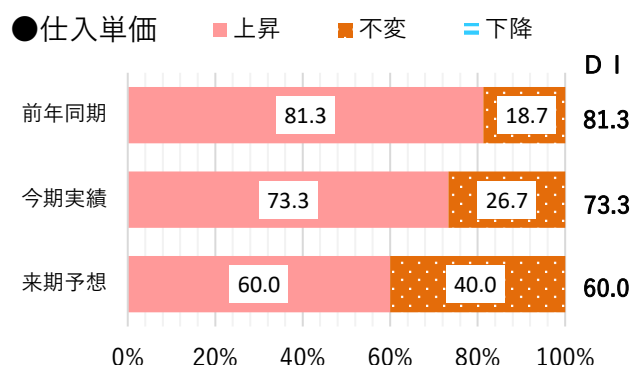
今期の売上単価DIは26.7で、前年同期と比べ35.8ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ0.1ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは73.3で、前年同期と比べ8.0ポイント低下しました。

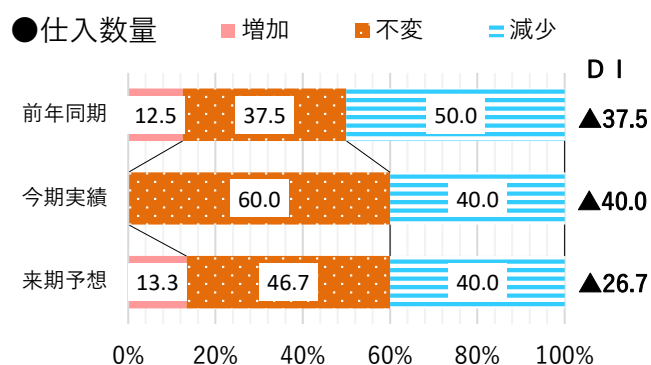
来期の仕入単価DIは今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

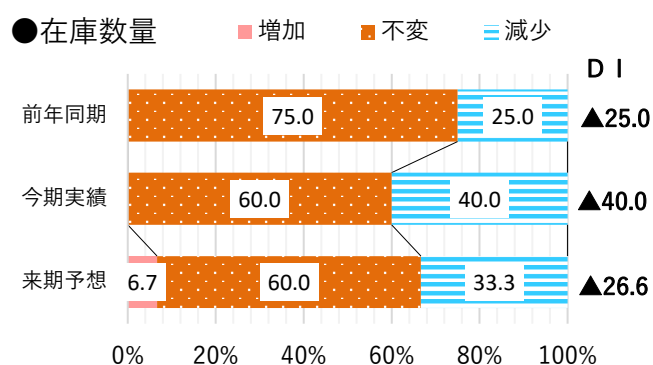
今期の仕入数量DIは▲40.0で、前年同期と比べ2.5ポイント低下しました。

来期の仕入数量DIは今期と比べ13.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲40.0で、前年同期と比べ15.0ポイント低下しました。

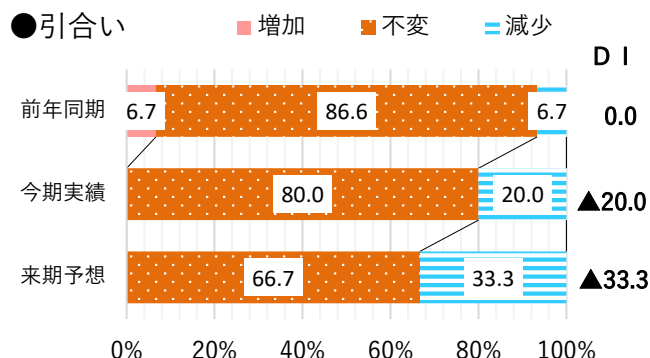
来期の在庫数量DIは今期と比べ13.4ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲20.0で、前年同期と比べ20.0ポイント低下しました。

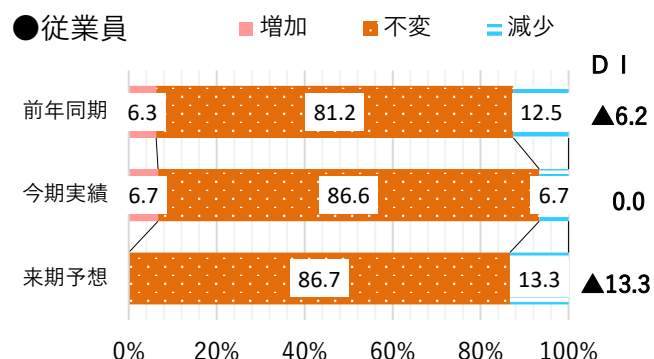
来期の引合いDIは今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



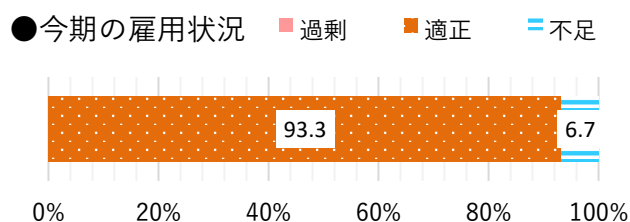
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は93.3%、不足していると回答した企業の割合は6.7%でした。



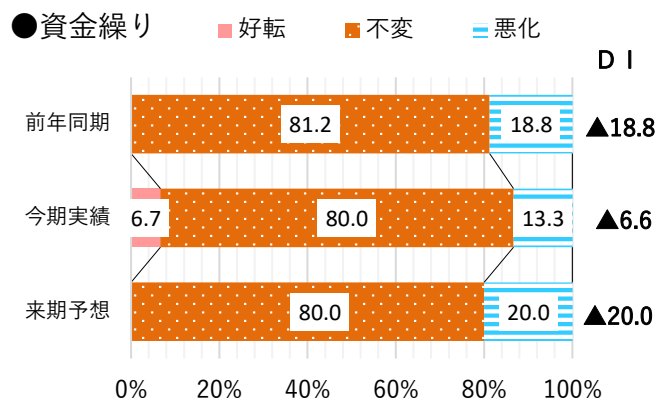
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、80%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	0

資金繰り、設備投資

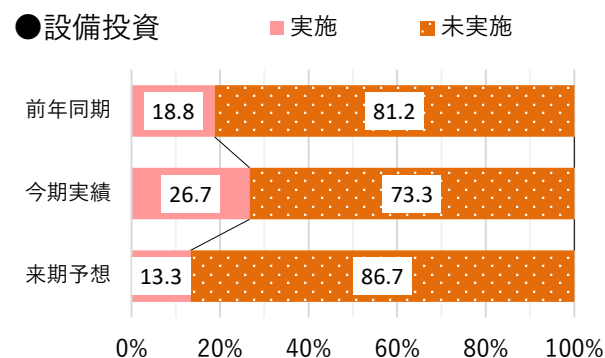
今期の資金繰りDIは▲6.6で、12.2ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ13.4ポイント低下すると予想しています。



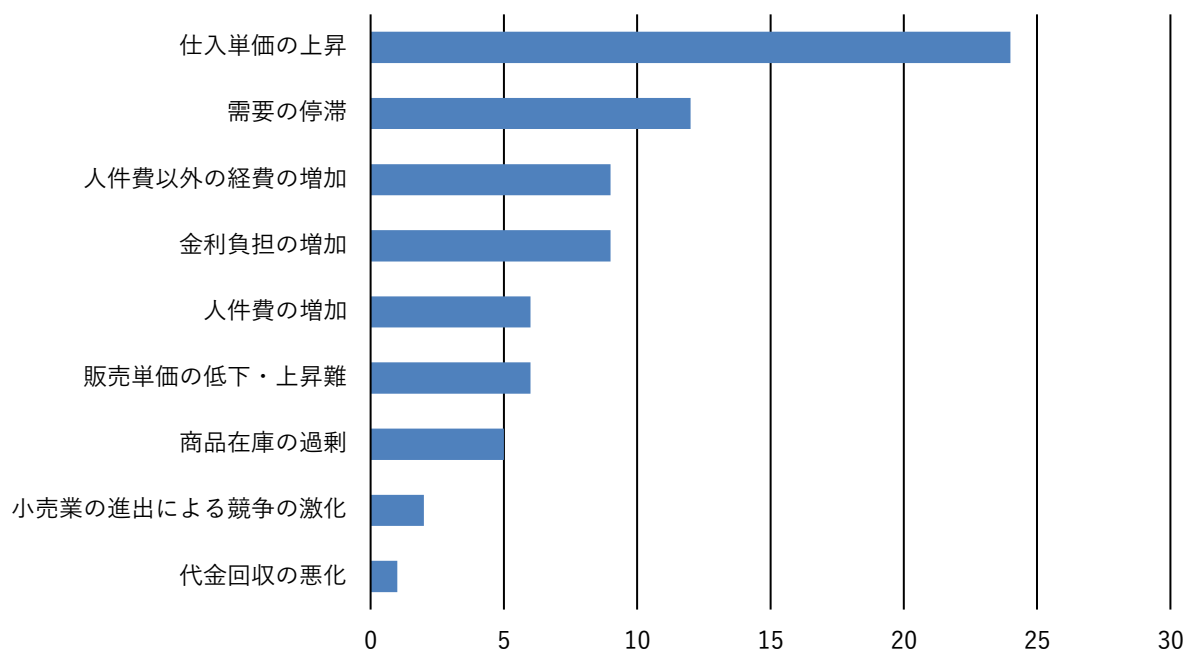
今期の設備投資は26.7%が実施と回答し、前年同期と比べ7.9%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は13.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費以外の経費の増加」、「金利負担の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格の上昇により、経常利益に未達となった。（食料、飲料）
- 新幹線、高規格道路、泊発電所の開発が継続しているため、従業員を増員した。（建築材料）
- メーカーからの値上げ対応が多い。同業者との価格競争があり大変である。（包装資材）
- 価格の高止まりが続き、利益確保が困難であった。（鉱物・金属材料）

[来期の業況について]

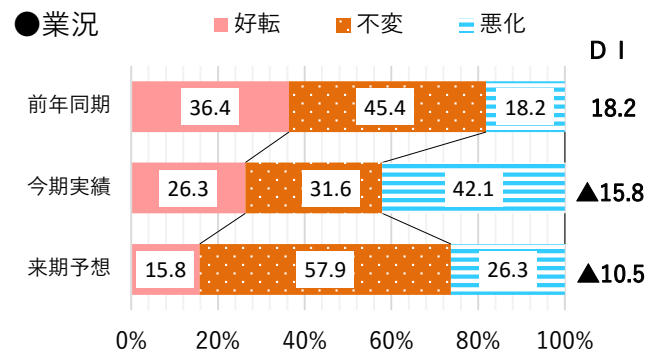
- 新幹線、高規格道路、泊発電所の開発が継続してる為、不変と予測する。（建築材料）
- 引き続き、価格の高止まりが予測され販売数量・売上額共に減少を想定している。（鉱物・金属材料）

小 売 業

業況、売上、採算

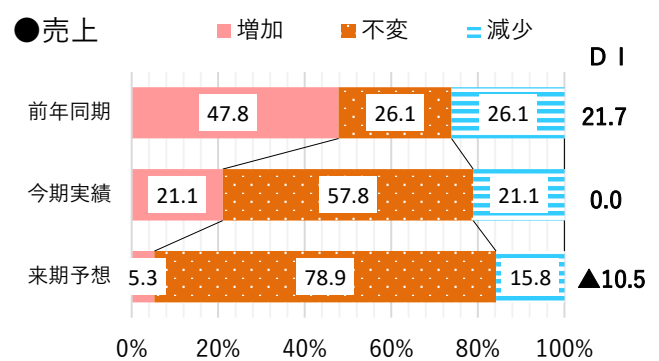
今期（2025.4～6）の業況判断DIは▲15.8で、前年同期（2024.4～6）と比べ34.0ポイントと大幅に低下しました。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期（2025.4～6）と比べ5.3ポイント上昇すると予想しています。



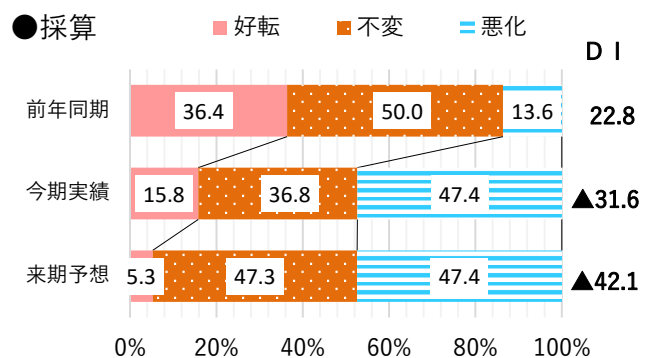
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ21.7ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ10.5ポイント低下すると予想しています。

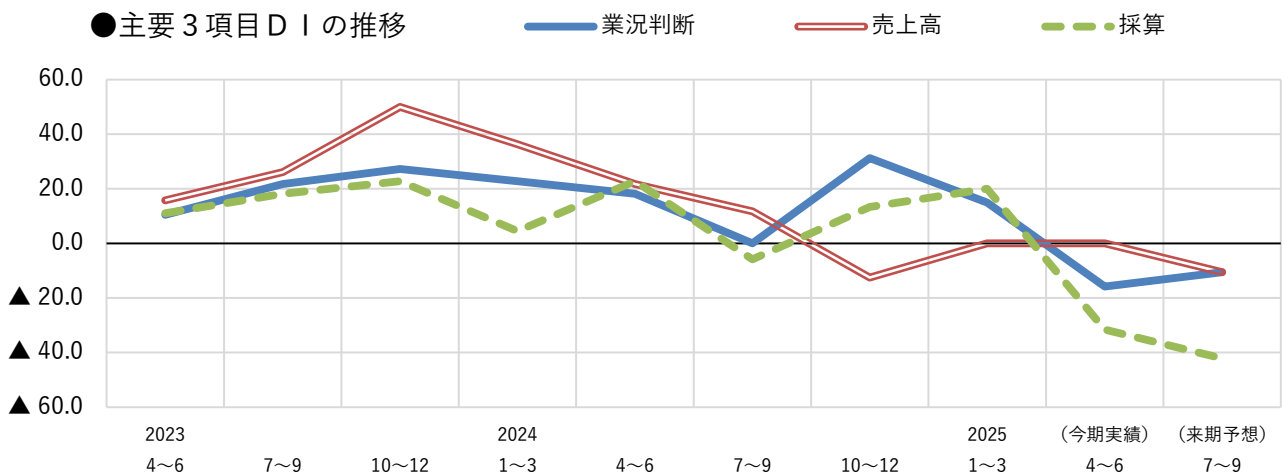


今期の採算DIは▲31.6で、前年同期と比べ54.4ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ10.5ポイント低下すると予想しています。



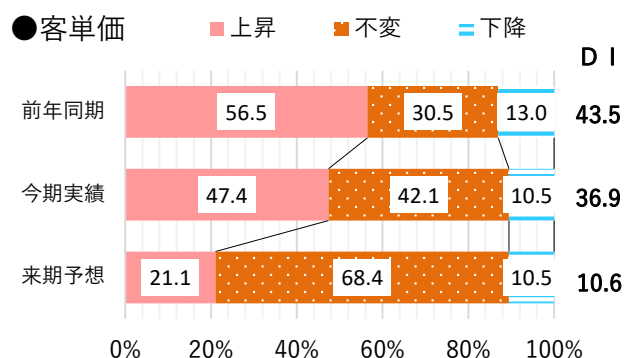
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

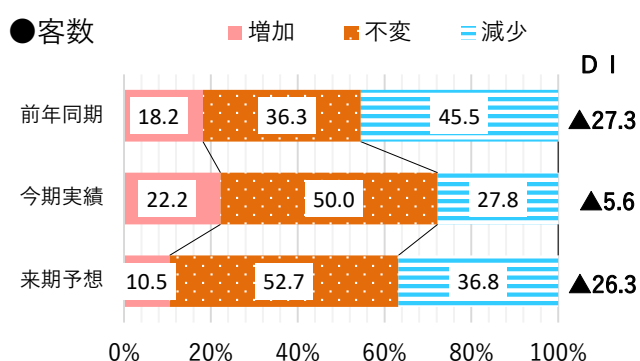
今期の客単価DIは36.9で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ26.3ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲5.6で、前年同期と比べ21.7ポイント上昇しました。

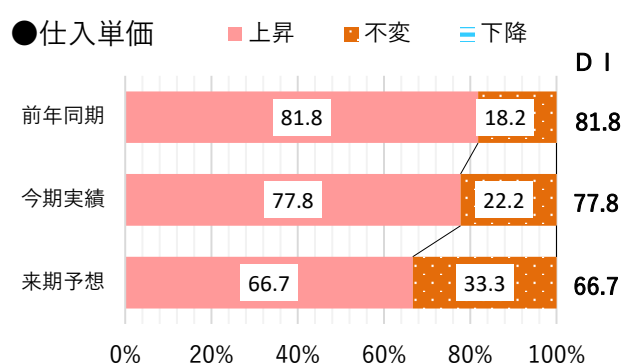
来期の客数DIは今期と比べ20.7ポイント低下すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

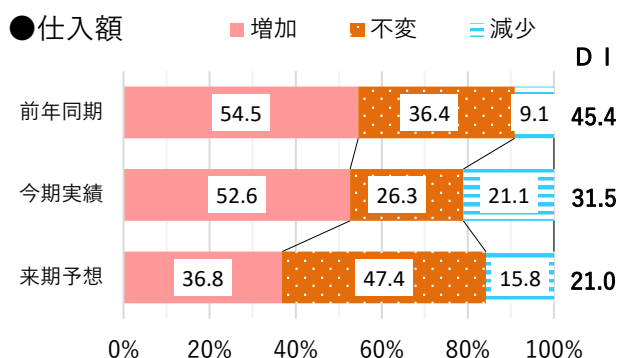
今期の仕入単価DIは77.8で、前年同期と比べ4.0ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ11.1ポイント低下すると予想しています。



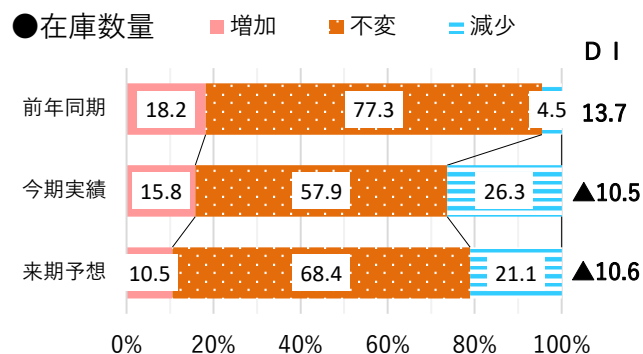
今期の仕入額DIは31.5で、前年同期と比べ13.9ポイント低下しました。

来期の仕入額DIは今期と比べ10.5ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲10.5で、前年同期と比べ24.2ポイント低下しました。

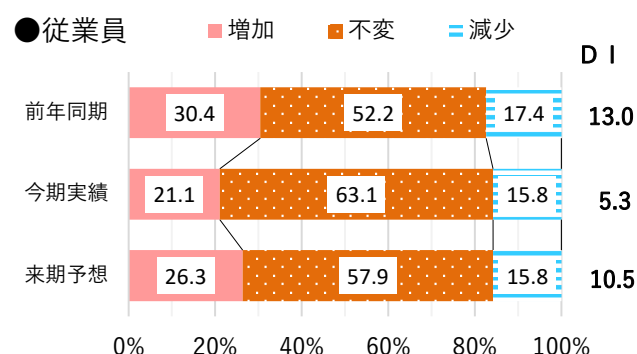
来期の在庫数量DIは今期と比べ0.1ポイント低下すると予想しています。



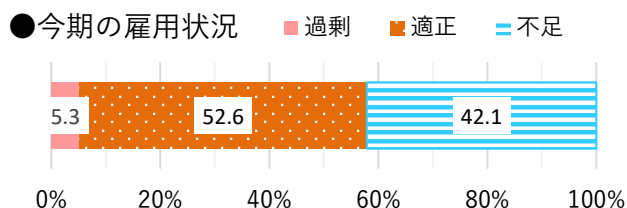
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは5.3で、前年同期と比べ7.7ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が適正であると回答した企業の割合は52.6%、不足していると回答した企業の割合は42.1%で、5.3%の企業では過剰であるとの回答がありました。



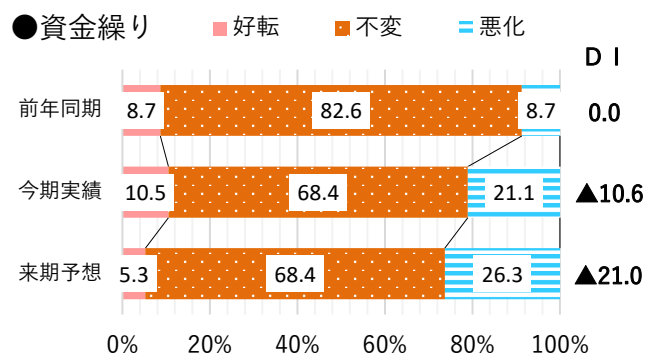
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、42.1%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

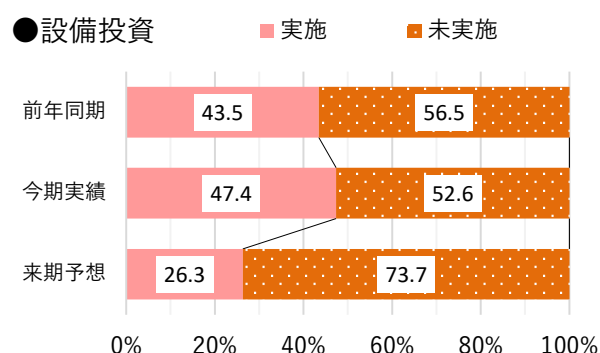
今期の資金繰りDIは▲10.6で、前年同期と比べ、10.6ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ10.4ポイント低下すると予想しています。



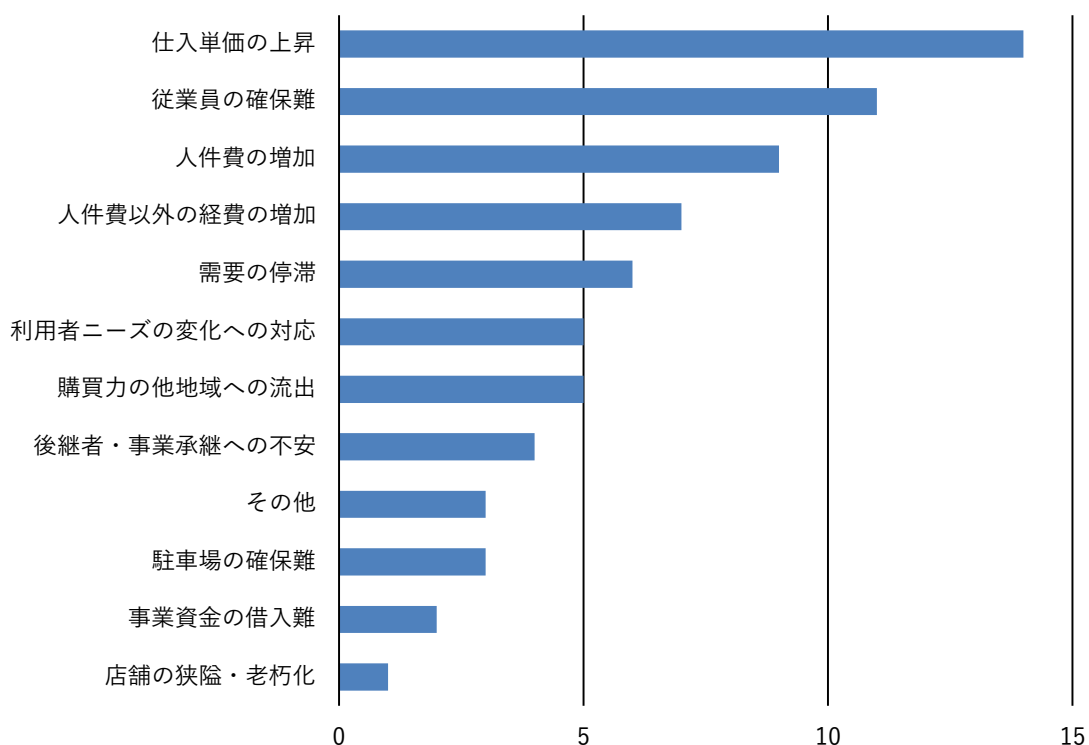
今期の設備投資は47.4%で、前年同期と比べ3.9%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」、「付帯施設」、「O A 機器」（同位）でした。

来期は26.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 人材確保は進み、インバウンド売上は伸長しているが、商圈顧客の減少しており苦戦。物価高により単価は上がっているが買い上げ点数の落ち込み、生活必需品以外の物の買い控えもあり、店舗の利益確保が難しくなっている。（大型店）
- 現在、売上減額、客数減、人材確保は高齢化している。（大型店）
- 人材不足（人手不足）が課題。（大型店）
- 高額商品の売れ行き不調により売上が伸び悩んでいる。（ホームセンター）
- 昨年同時期にはエアコン販売が好調で6月まで需要増が続き、その影響が今年の4-6月に出ている。
（家電量販店）
- 原料玄米の不足を原因とする価格の高騰により商品単価が値上がりしている。相変わらず採算は気が抜けないが、商品不足から過剰な価格競争がない分、落ち着いて価格交渉に臨むようにしている。主食である食材を多めに買い込む傾向が見られ、単価が高いが、販売数量は減ることなく堅調に推移している。また、観光関連施設や飲食店向けの需要は4月は増加傾向だったが、5月からは若干落ち着いているように感じる。（食料品小売）
- 売上減少、利用客数減、人材不足によるタイミー利用、最低賃金の上昇等の影響を受けている。
（コンビニ）
- 仕入価格の上昇が利益を圧迫している。効率よく作れる様改善したい。（菓子製造小売）
- 原材料、包装資材の値上げに苦労している。（菓子製造小売）
- 車両イヤーモデルチェンジと連動し価格上昇した。（自動車小売）
- 新車の販売が好調。（自動車小売）
- 仕入価格増加でも利益確保できた。（燃料小売）
- 売上は昨年と比べて少し下がっているが、単価の高い商品がたまに売れるので、そんなに変わってはいない。仕入れはメーカーが価格を上げているので、辛いがその分、数で調整している。（時計・メガネ）

[来期の業況について]

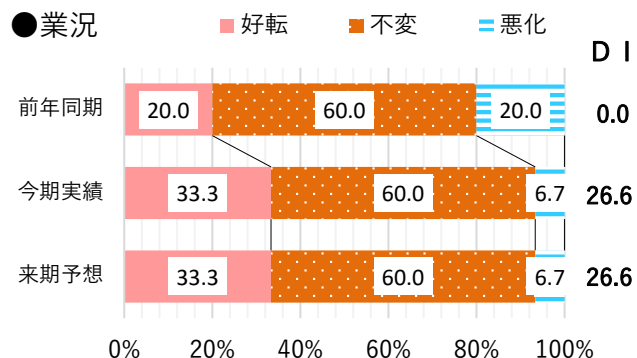
- 来期も同様の状況が続くと予想されるため、集客施策を増やして対策をしていきたい。（大型店）
- 来期も売上減額、客数減、人材確保が課題になると考えている。（大型店）
- 人材不足（人手不足）が課題。（大型店）
- 昨年のエアコン特需が6月で終わり7月からは減少していた分今年は増収が見込まれる。（家電量販店）
- 原料玄米の価格の推移がまったく読めないため、見通しは立っていない。とにかく高品質のものを必要な数量確保するよう全力で取り組みたい。（食料品）
- 今期と同様の状況になると予想している。（コンビニ）
- 多種の値上げによる利益の減少を懸念している。（菓子製造小売）
- EV新機種投入も4WD車が無い為、大きな変更は見込めない。（自動車小売）
- 客数が増加しているので売上に繋がると期待している。（自動車小売）
- 今期と同じような状況とみている、上がることはなく、よくてほぼ不変と考えている。（時計・メガネ）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

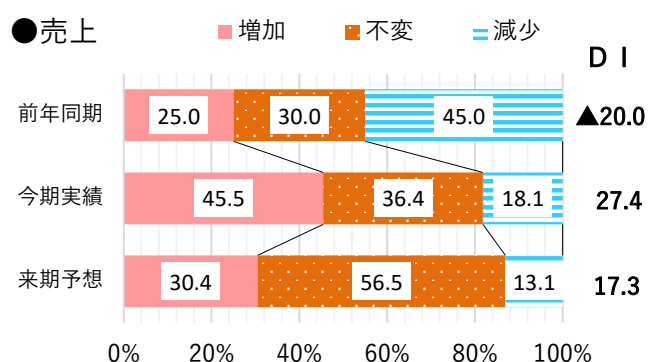
今期（2025.4～6）の業況判断DIは26.6で、前年同期（2024.4～6）と比べ26.6ポイント上昇しました。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期と比べ（2025.4～6）変化なしと予想しています。



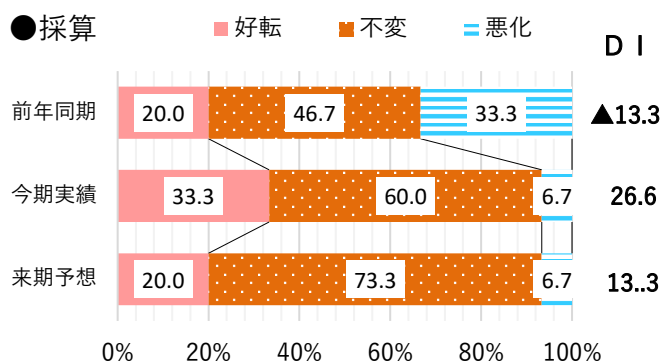
今期の売上高DIは27.4で、前年同期と比べ47.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ10.1ポイント低下すると予想しています。

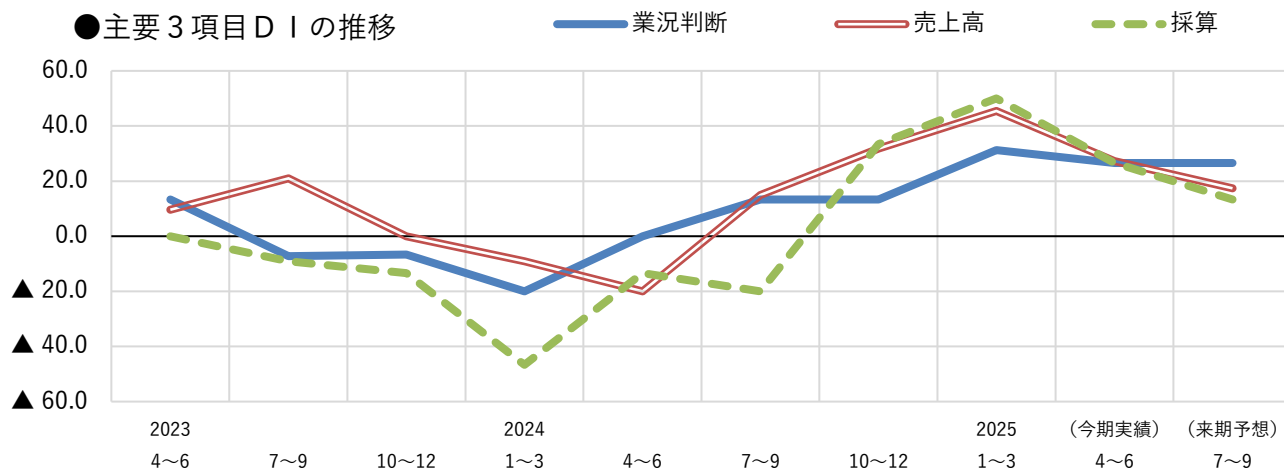


今期の採算DIは26.6で、前年同期と比べ39.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



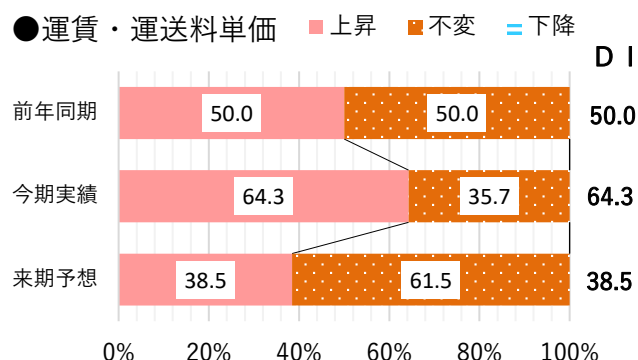
●主要3項目D Iの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

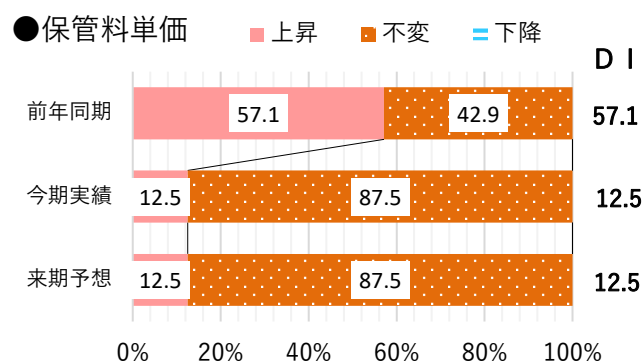
今期の運賃・運送料単価DIは64.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

来期の運賃・運送料単価DIは今期と比べ25.8ポイント低下すると予想しています。



今期の保管料単価DIは12.5で、前年同期と比べ44.6ポイントと大幅に低下しました。

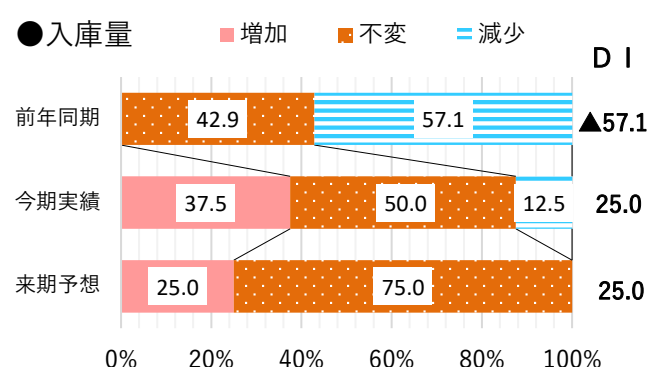
来期の保管料単価DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

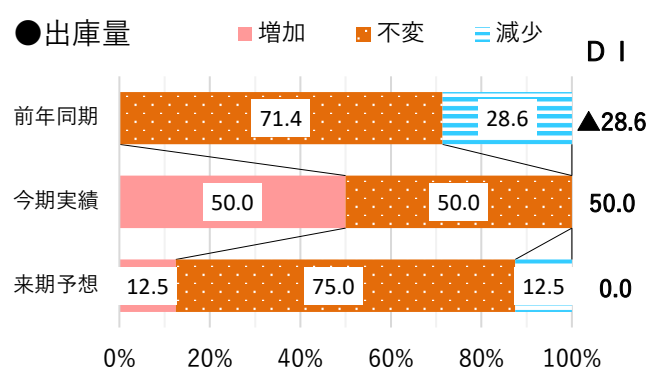
今期の入庫量DIは25.0で、前年同期と比べ82.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期の入庫量DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



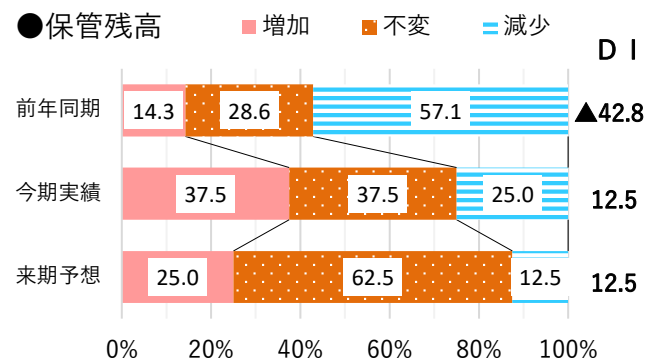
今期の出庫量DIは50.0で、前年同期と比べ78.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期の出庫量DIは今期と比べ50.0ポイントと大幅に低下すると予想しています。



今期の保管残高DIは12.5で、前年同期と比べ55.3ポイントと大幅に上昇しました。

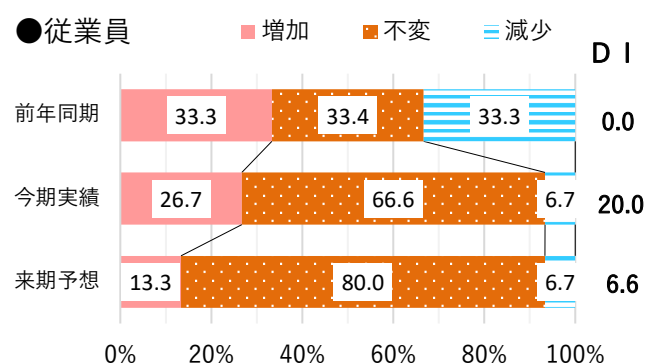
来期の保管残高DIは今期と比べ変化なしと予測しています。



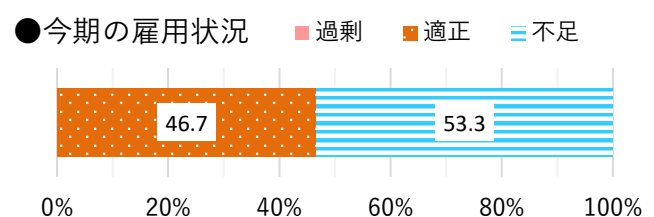
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは20.0で、前年同期と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ13.4ポイント低下を予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は46.7%、不足していると回答した企業の割合は53.3%でした。



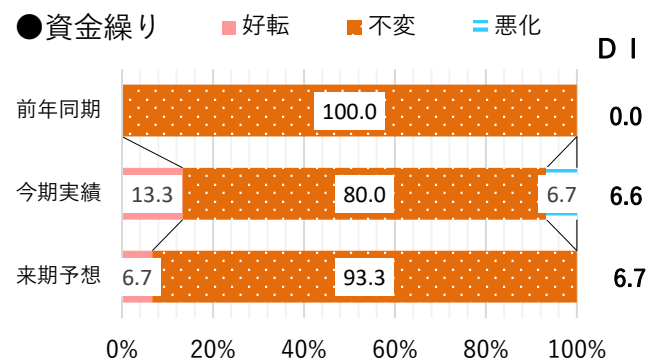
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、それぞれ33.3%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

資金繰り、設備投資

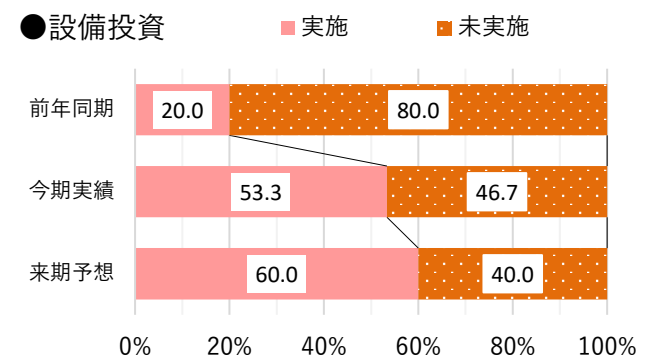
今期の資金繰りDIは6.6で、前年同期と比べ6.6ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ0.1ポイント上昇すると予想しています。



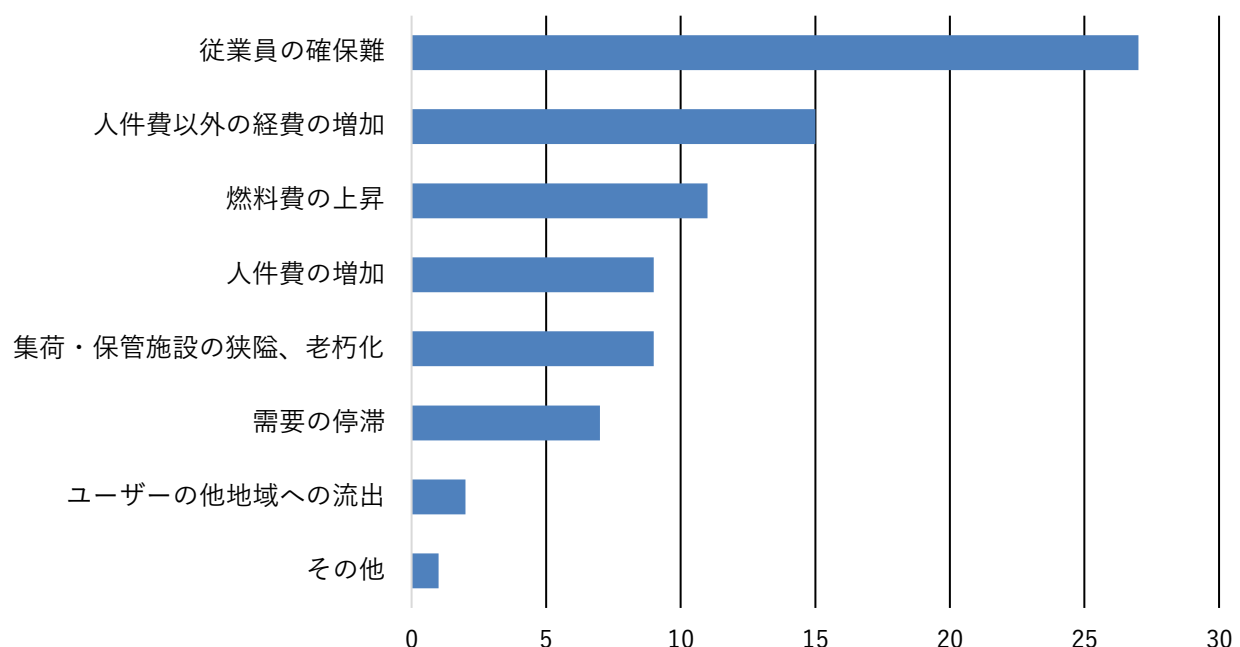
今期の設備投資はを53.3%が実施と回答し、前年同期と比べ33.3%上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「O A 機器」の順です。

来期は60.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「燃料費の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 前年12月に運賃改定を実施したことにより、今期は売上額が上昇した。(道路旅客運送)
- 売上単価は増加したが、消費行動は低迷傾向。(道路旅客運送)
- 人材確保に苦戦している。(道路旅客運送)
- 倉庫部門に関しては通年通りで推移するが、輸送部門のドライバー職の確保が出来ず収益・現業差益の悪化の原因となる。(道路貨物運送)
- 人材確保に苦戦するも、業務単価は上げることが出来ている。(道路貨物運送)
- 昨年並に推移しそう。(道路貨物運送)
- 倉庫保管では、備蓄米の出庫が進み、保管料収入は減少と見込む。(港湾運送)
- 貨物・旅客とも数量、売り上げともに増加となった。貨物についてはほぼ前年並み、旅客は旅行需要等で増加、人材確保については新入社員入社により増加。(水運)
- 料金改定が出来て、収益は改善。(倉庫)
- 出庫量の増加により売上額が減少した。(倉庫)

[来期の業況について]

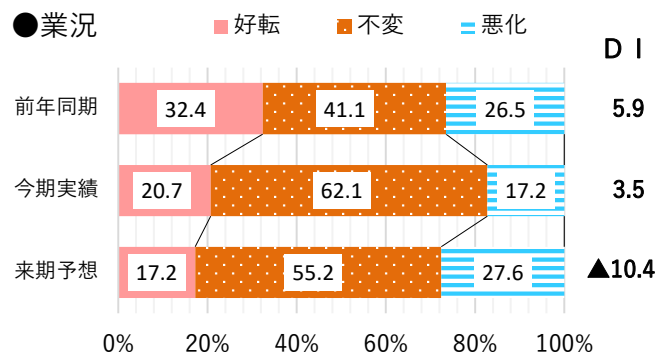
- 売上額の変動すると見込んでいる。(道路旅客運送)
- 昨年並に推移しそう。(道路旅客運送)
- 人材確保が出来なければ今期同様で推移する見込み。(道路貨物運送)
- 貨物は収穫期を迎える事と、旅客も旅行や帰省の需要期を迎えることで、輸送量・売り上げとも増加見込み。(水運)
- 入庫量の増加が見込める為、好転するものと思われる。(倉庫)
- 今まで通りの料金改定ができるか未定。(倉庫)

観光業

業況、売上、採算

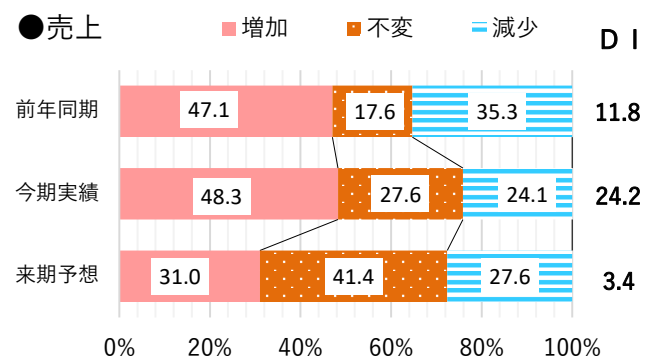
今期（2025.4～6）の業況判断DIは3.5で、前年同期（2024.4～6）と比べ2.4ポイント低下しました。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期（2025.4～6）と比べ13.9ポイント低下すると予想しています。



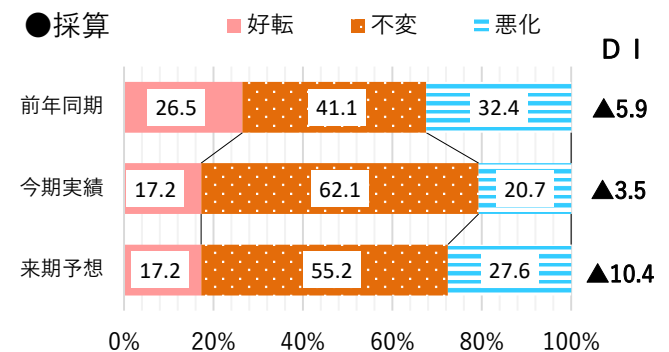
今期の売上DIは24.2で、前年同期と比べ12.4ポイント上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ20.8ポイント低下すると予想しています。

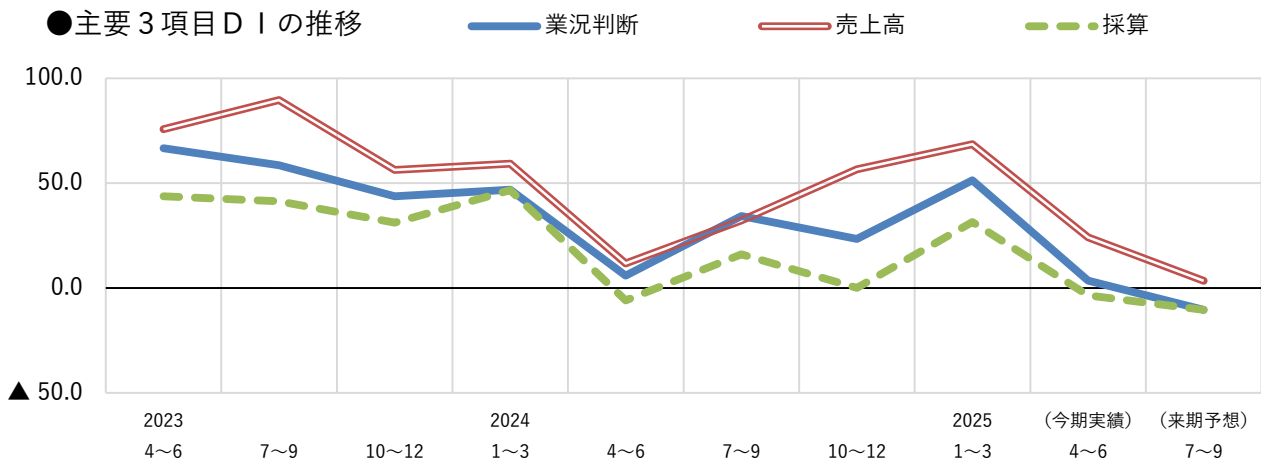


今期の採算DIは▲3.5で、前年同期と比べ2.4ポイント上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ6.9ポイント低下すると予想しています。



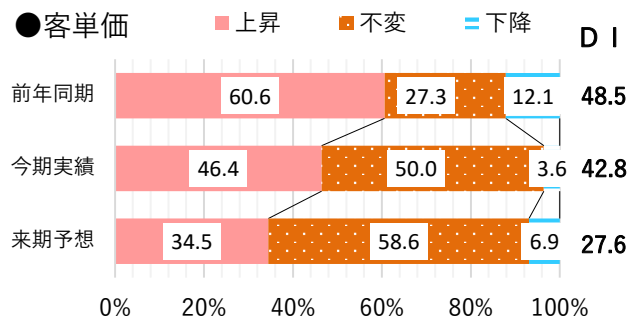
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

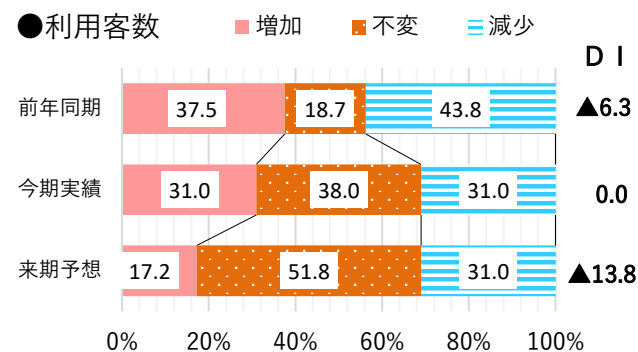
今期の客単価DIは42.8で、前年同期と比べ5.7ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ15.2ポイント低下すると予想しています。



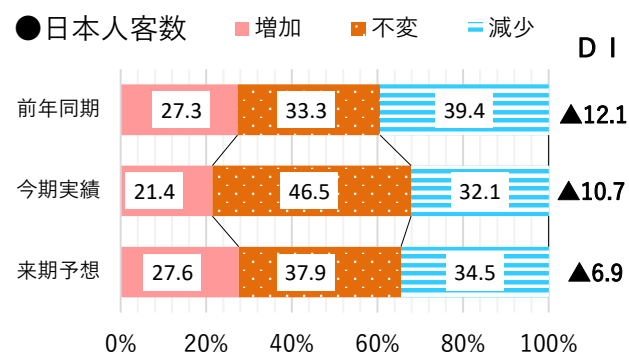
今期の利用客数DIは0.0で、前年同期と比べ6.3ポイント上昇しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ13.8ポイント低下すると予想しています。



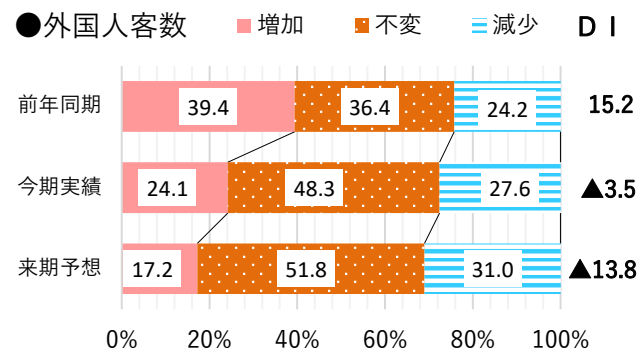
今期の日本人客数DIは▲10.7で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

来期の日本人客数DIは今期と比べ3.8ポイント上昇すると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲3.5で、前年同期と比べ18.7ポイント低下しました。

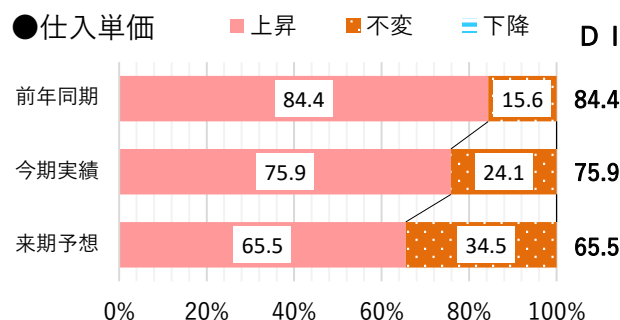
来期の外国人客数DIは今期と比べ10.3ポイント低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは75.9で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。

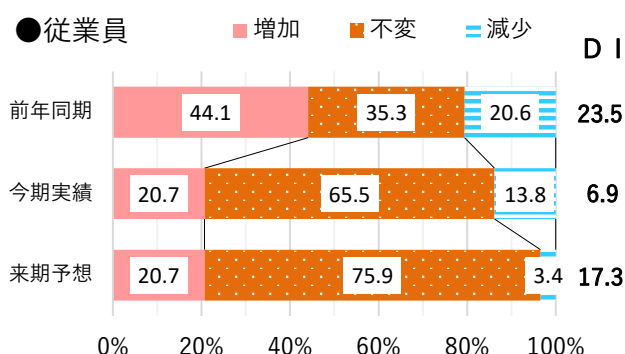
来期の仕入単価DIは今期と比べ10.4ポイント低下すると予想しています。



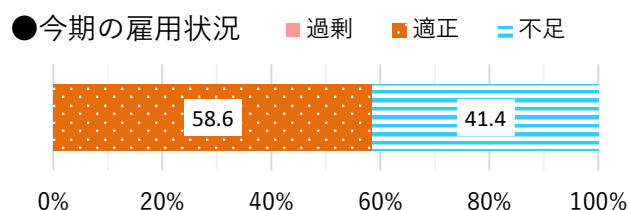
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは6.9で、前年同期と比べ16.6ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ10.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は58.6%、不足していると回答した企業の割合は41.4%でした。



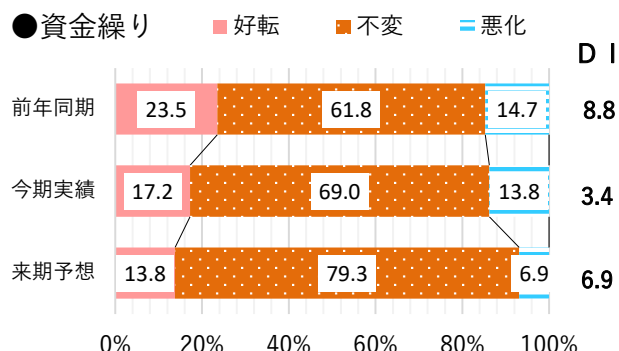
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、41.4%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

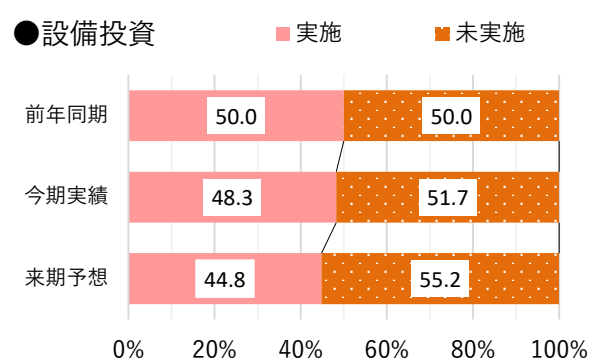
今期の資金繰りDIは3.4で、前年同期と比べ5.4ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ3.5ポイント上昇すると予想しています。



今期の設備投資は48.3%が実施と回答し、前年同期と比べて1.7%低下しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「サービス設備」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期は44.8%が設備投資を計画していると回答しています。

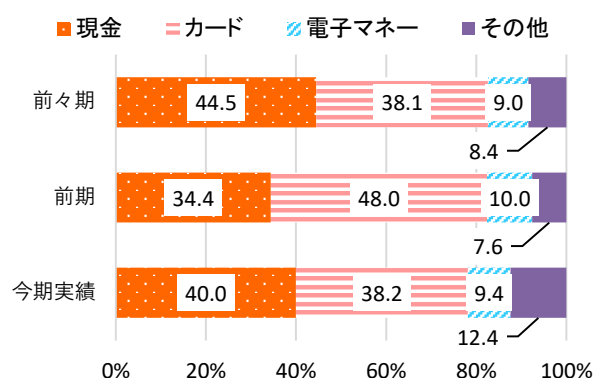


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で40.0%、2位がカードで38.2%、3位がその他で12.4%、4位が電子マネーで9.4%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、掛売り、クーポン券、銀行振込、オンライン決済（d払い、paypay等）、バーコード決済の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

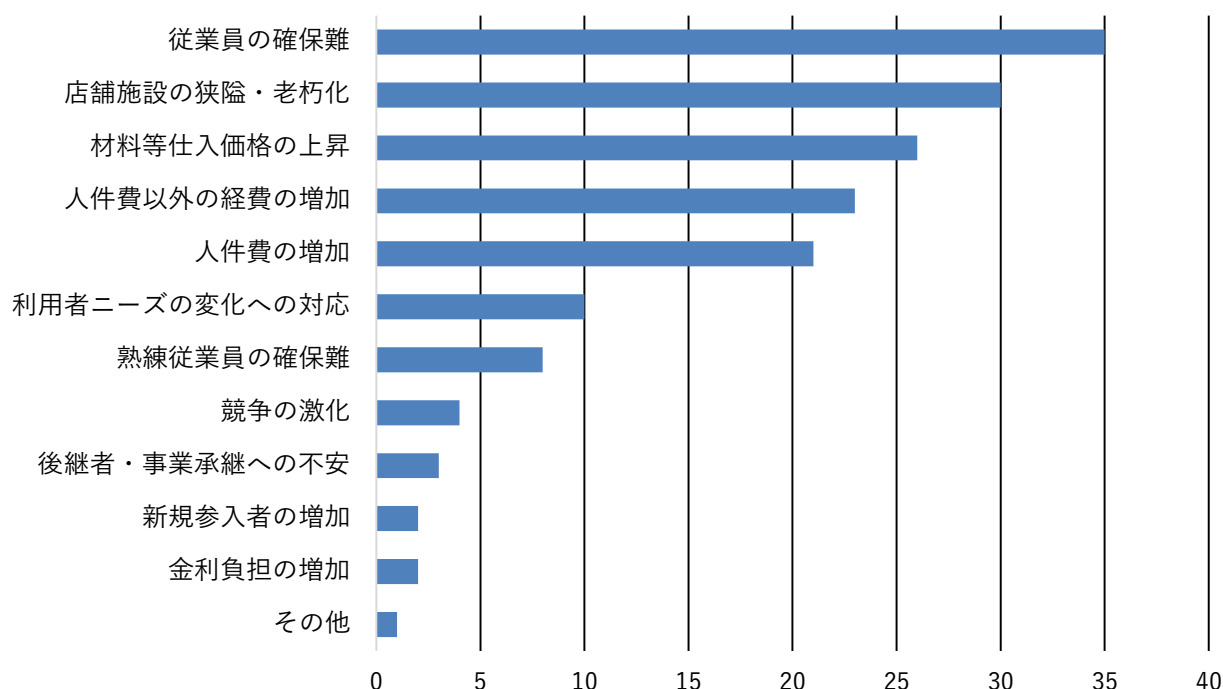


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は51.4%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 万博に行ってるのか、利用客数が減少した。（飲食）
- 日本人観光客は、人数、売上高共に堅調であったが、外国人観光客は、前期と比較してアメリカと韓国の観光客が減少した。特に外国人のバスツアー利用客の減少が顕著であったが、外国人の購買意欲は高いまま旺盛であることに加え、製品価格の値上げをしたので、売上高と利益は不変となった。しかし、製造原価と人件費は、まだ高騰しているので、収益面での厳しさはここ数年の変化がない。また、来店客の減少で、人手不足感は、想定以下だった。（土産品）
- インバウンドの利用客が以前よりも安定して来店していることで、業績が安定している。（土産品）
- 海外の利用客数は例年並だが、国内の利用客数は少し少ない気がする。（土産品）
- 製品を値上げしたことにより、原材料の値上げ分を吸収した。（土産品）
- インバウンドの利用客が増加し、客数が増えた。（土産品）
- インバウンドの利用客が安定して来店している。（土産品）
- 国内観光客の利用客数は増加したが、インバウンドの利用客数はやや減少した。（レンタカー）
- 人材確保が出来ないので、事業規模が縮小傾向にある。（レンタカー）
- 札幌の宿泊施設供給過多により小樽への宿泊需要が益々減少し、日帰りできる街という傾向が更に増している。（ホテル）
- 仕入価格や光熱費等の経費増加が、本当に厳しい。（ホテル）
- 仕入価格が高い。（ホテル）
- 売上微増だが、予約日が宿泊直近になってきており、状況判断が難しくなっている
(コテージ・ペンション)
- 売上は上がっているが、燃料などの経費が増大している。（社会教育）

- 昨年同期と比較し、悪天候の日が多く、売上・乗船客数とも若干減少したが、本年4月から正社員給与の約5%UP、パートの時給単価100円UPに成功した。（水運業）
- 売上及び利益が若干増加したことに加え、経費を若干縮減できた。（娯楽業）

[来期の業況について]

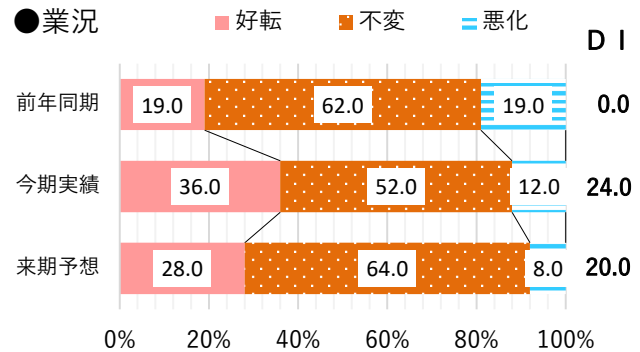
- 万博が終われば、他方面への観光も増えるのではと予想する。（飲食）
- 今期に引き続き外国人観光客の減少を予想している一方で、日本人観光客が堅調に推移すると考えている。バスツアーの予約が低調なので全体的な景況は、微減と予想した。そして、令和の米騒動で原料米の不足と価格の高騰が予定されており、今後の成り行きを大いに懸念している。また、産休取得者が複数人予定されており、夏季の最盛期に人手不足の問題に直面する。（土産品）
- 日に日にクレジットカードや電子マネーを使う利用客が増えており、現金比率が減っているので手数料が心配である。（土産品）
- インバウンドのお客様が以前よりも安定して来店されていることで業績が安定している。（土産品）
- 観光シーズンに入るので、売上額は増加すると予想する。（土産品）
- 人材確保が出来ないので、事業規模が縮小傾向にある。（レンタカー）
- インバウンドの利用客数は減少と予想する。（レンタカー）
- 人材確保が難しい。（ホテル）
- 予約日が宿泊直近になっていることで、予測と判断が難しくなっている。また、引き続き人材確保が難しく、従業員不足が予想される。（コテージ・ペンション）
- 売上は上がっているが、燃料などの経費が増大している。（社会教育）
- 来期は、1年の中で最も繁忙期となることから、今期と比較し、売上・乗船客数とも増加が見込まれる。（水運業）
- 来期は売上、仕入額が上昇する可能性が高いと予想する。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

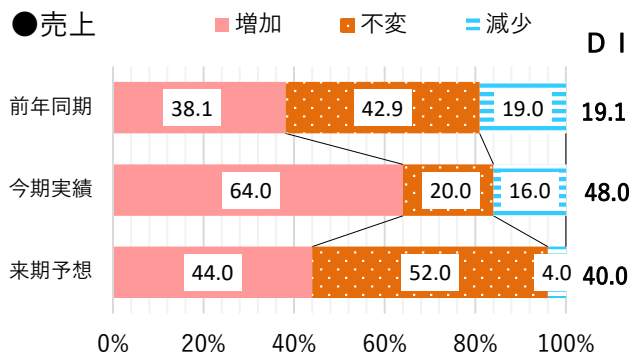
今期（2025.4～6）の業況判断DIは24.0で、前年同期（2024.4～6）と比べ24.0ポイント上昇しました。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期（2025.4～6）と比べ4.0ポイント低下すると予想しています。



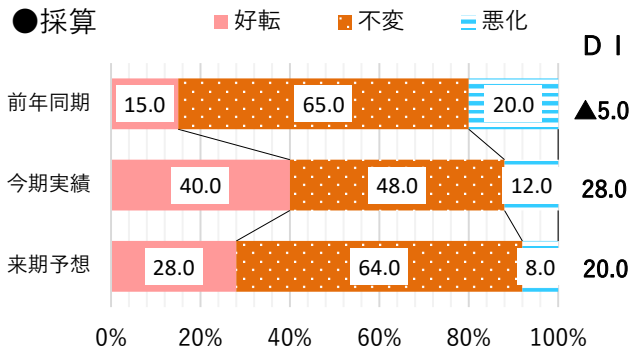
今期の売上高DIは48.0で、前年同期と比べ28.9ポイント上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ8.0ポイント低下すると予想しています。

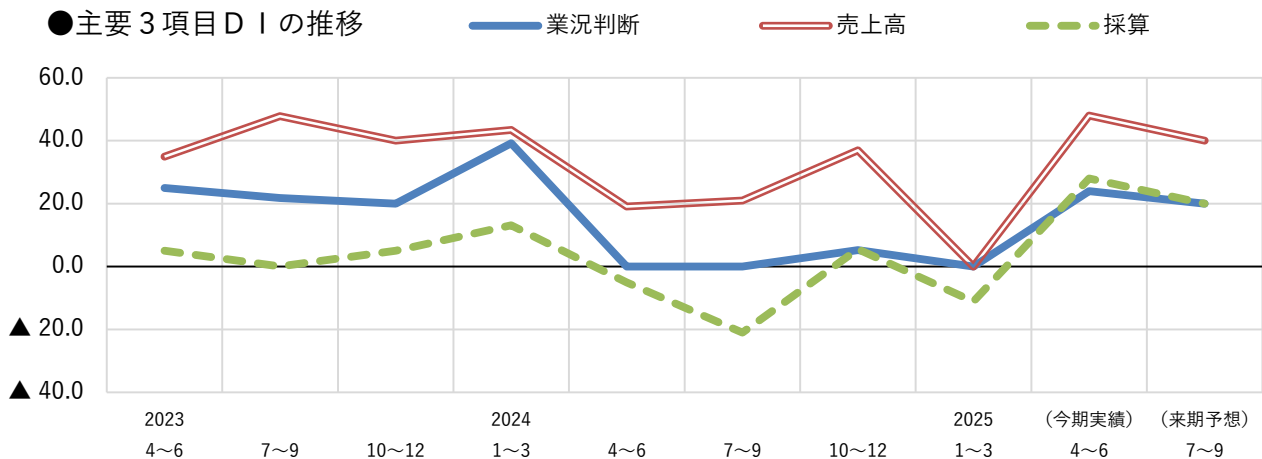


今期の採算DIは28.0で、前年同期と比べ33.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ8.0ポイント低下すると予想しています。



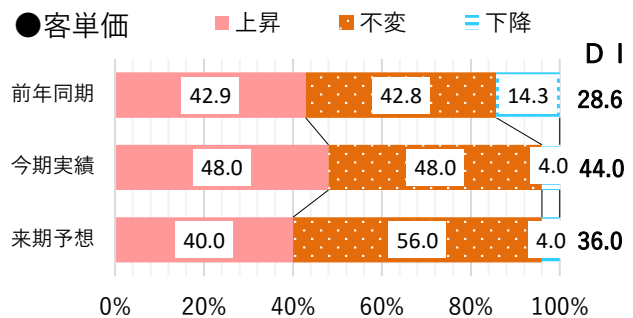
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

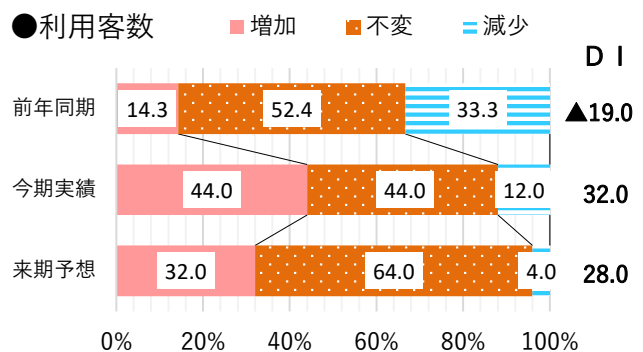
今期の客単価DIは44.0で、前年同期と比べ15.4ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは今期と比べ8.0ポイント低下すると予想しています。



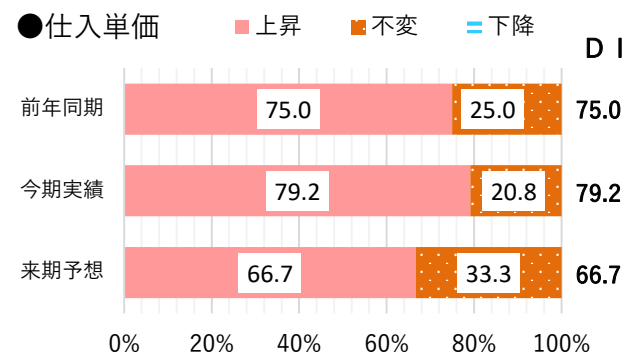
今期の利用客数DIは32.0で、前年同期と比べ51.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ4.0ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは79.2で、前年同期と比べ4.2ポイント上昇しました。

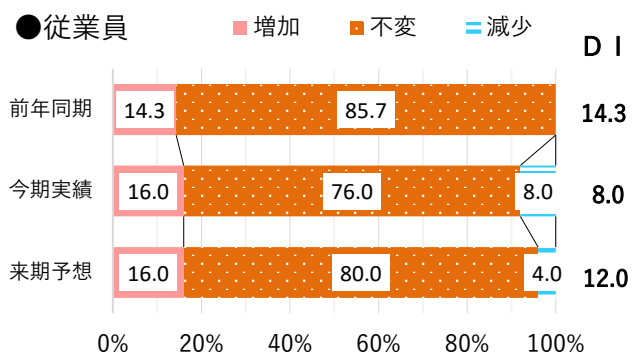
来期の仕入単価DIは今期と比べ12.5ポイント低下すると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは8.0で、前年同期と比べ6.3ポイント低下しました。

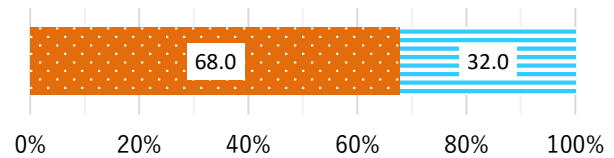
来期の従業員DIは今期と比べ4.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は68.0%、不足していると回答した企業の割合は32.0%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、52.0%を占めました。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足

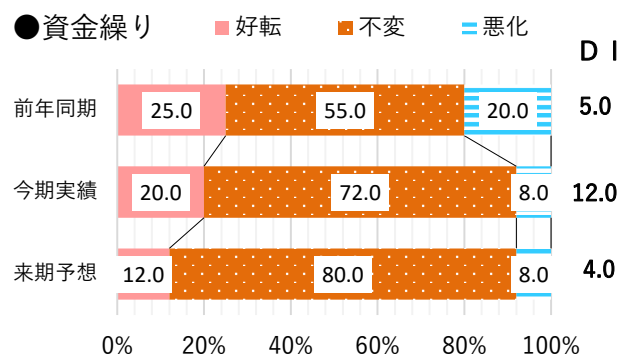


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

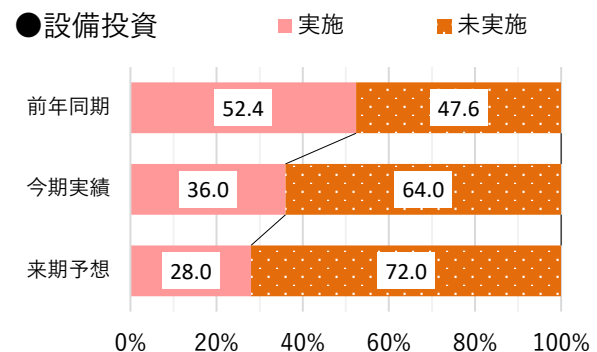
今期の資金繰りDIは12.0で、前年同期と比べ7.0ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ8.0ポイント低下すると予想しています。



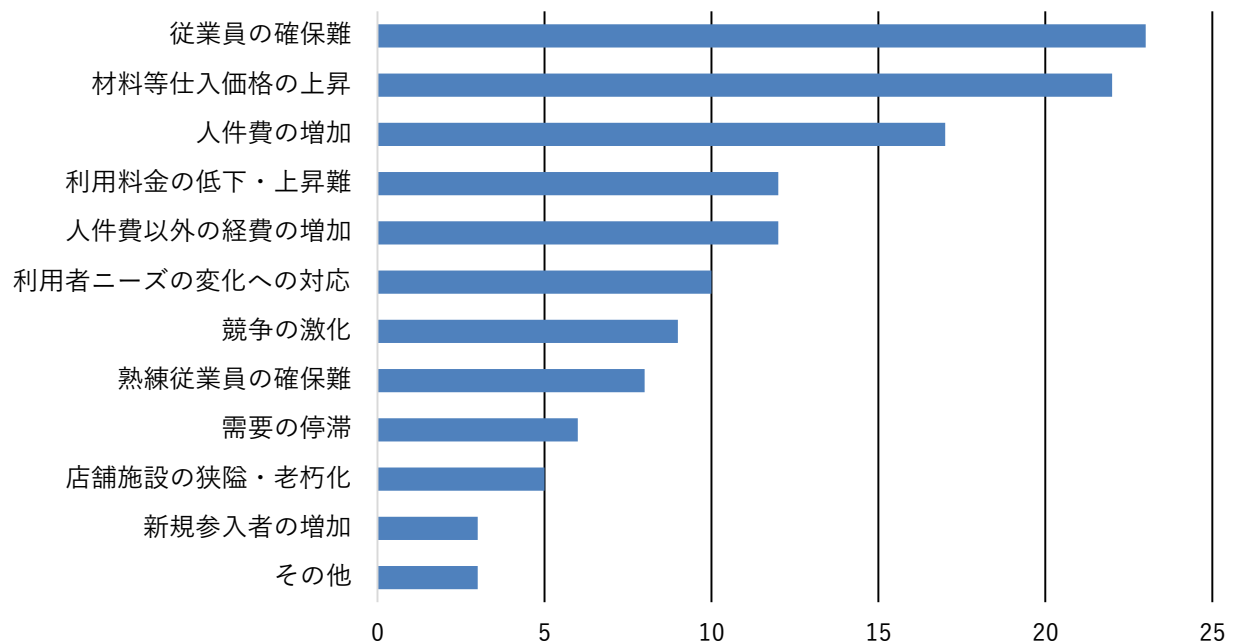
今期の設備投資は36.0%が実施と回答し、前年同期と比べ16.4%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」、3位が「サービス設備」、「付帯設備」（同位）の順です。

来期は28.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 5月から団体、個人の観光客が増え始め売上が上昇したが、仕入価格が高値で業況は好転しているが利益はさほど変わらない状況となっている。(飲食店)
- 顧客が適時値上げに応じてくれたため、採算が好転した。(ビルメンテナンス)
- 20代～40代の若手人材の確保が難しい。(ビルメンテナンス)
- 利用客数の減少と仕入価格の上昇で、利益率が減少した。(写真業)
- 人件費の上昇について値上げ交渉を実施し、利益確保に成功した。(各種物品賃貸業)
- AI導入などにより仕入価格が若干上昇したが、前期と変わらない水準である。
(情報処理・提供サービス)
- 販管費の大幅な削減を実施し、主要事業の需要が増加した。(情報処理・提供サービス)
- 客単価と売上が上昇したが、1人の施術時間が長くなるのと、スタッフの確保が上手く出来ず他の利用客をお断りすることが多く、客数が伸びなかった。また、仕入価格は5月も値上げであった。
(美容業)
- 今期は売上、客数ともに予定を上回ったが、経費の増加が今後不安である。(不動産代理・仲介業)
- 来場者が減少したので、売上額も減少した。(スポーツ施設)

[来期の業況について]

- 来期も同様と思う。(飲食店)
- 最低賃金や値上げ交渉の動向にもよるため、業況は不変とした(ビルメンテナンス)
- デジタル化の波で客数が減少し、売上高の上昇につながらないと予測する。(写真業)
- 病院の経営悪化や、医師不足による閉院が影響する可能性が大いにある。(各種物品賃貸業)
- 売上、仕入価格ともに変化なしと予測する。(情報処理・提供サービス)

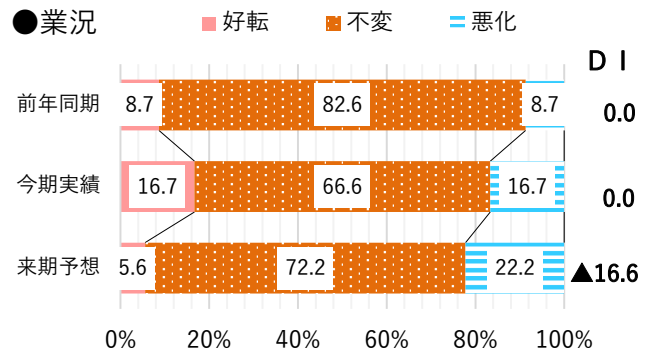
- 主要事業の需要が増えると予想する。（情報処理・提供サービス）
- これからイベントが増えるため利用客が予定を立てるのが容易になるので、予約が普段より埋まっている。今期の流れに乗って売上に期待したい。また、仕入価格が高いので商品在庫を置かずに、予約注文販売を行うことも検討中である。（美容業）
- 来期は大きな変化ないと予測する。（不動産代理・仲介業）
- 利用客数、売上額ともに不変と予測する。（スポーツ施設）

建設業

業況、売上、採算

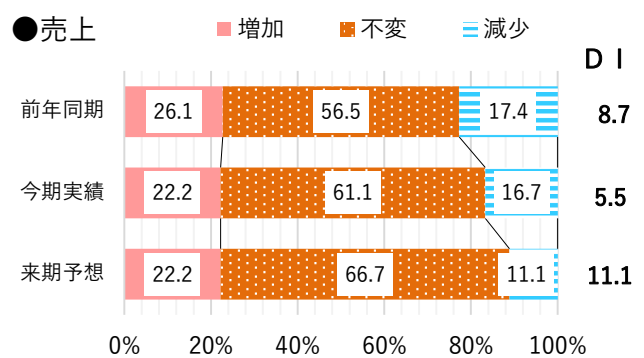
今期（2025.4～6）の業況判断DIは0.0で、前年同期（2024.4～6）と比べ変化はありませんでした。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期（2025.4～6）と比べ▲16.6ポイント低下すると予想しています。



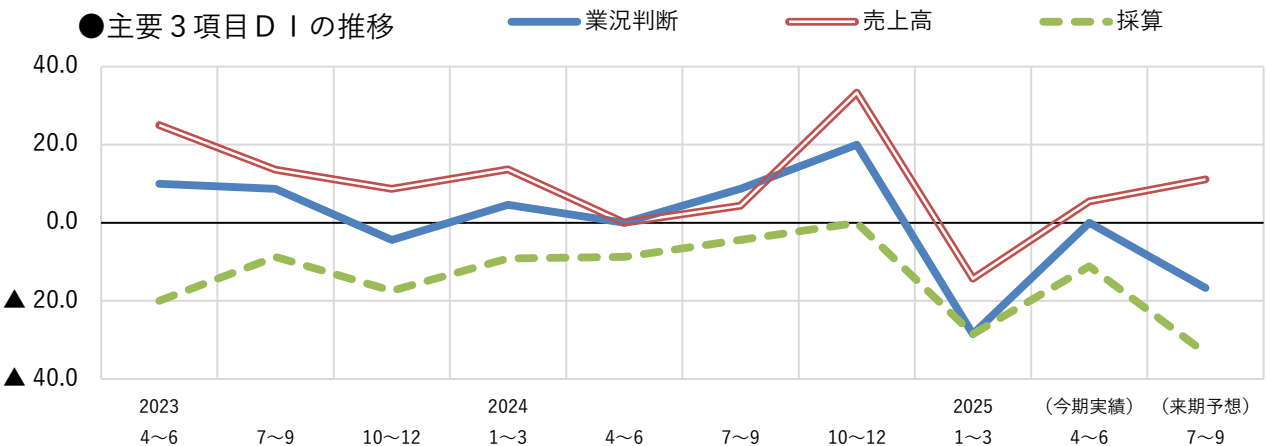
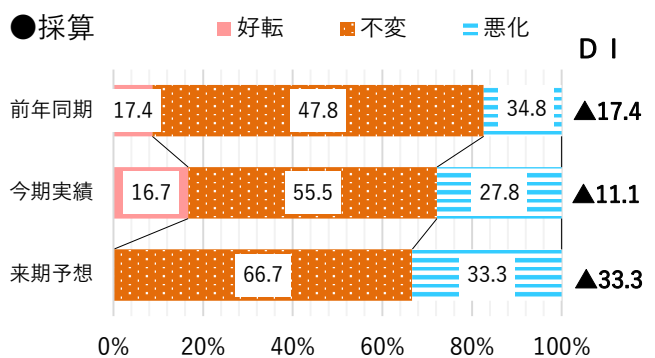
今期の売上高DIは5.5で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは▲11.1で、前年同期と比べ6.3ポイント上昇しました。

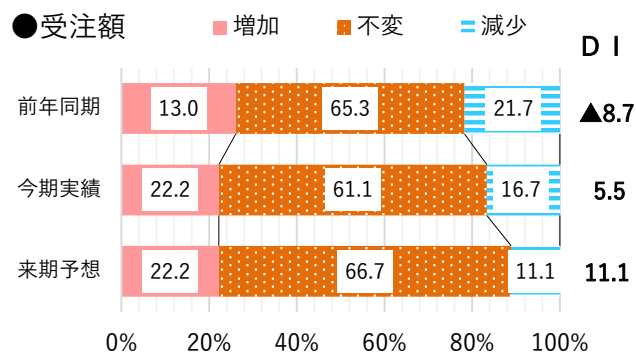
来期の採算DIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

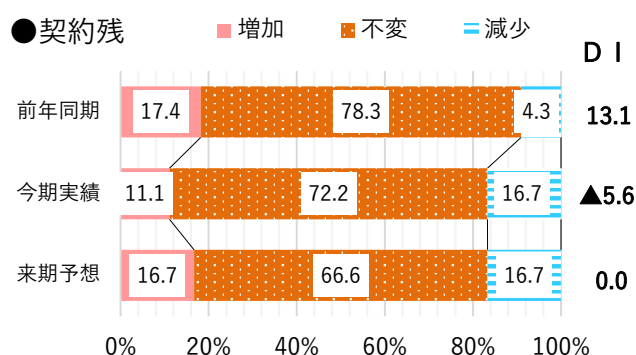
今期の受注額DIは5.5で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

来期の受注額DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



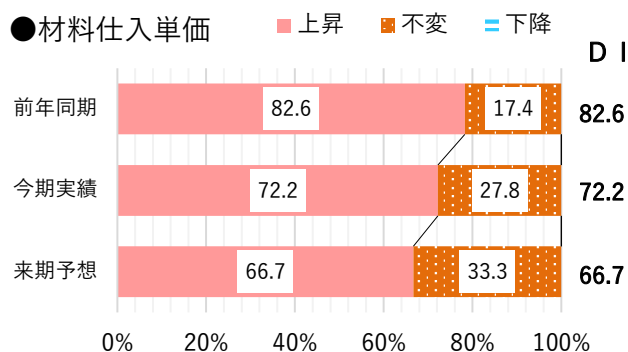
今期の契約残DIは▲5.6で、前年同期と比べ18.7ポイント低下しました。

来期の契約残DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは72.2で、前年同期と比べ10.4ポイント低下しました。

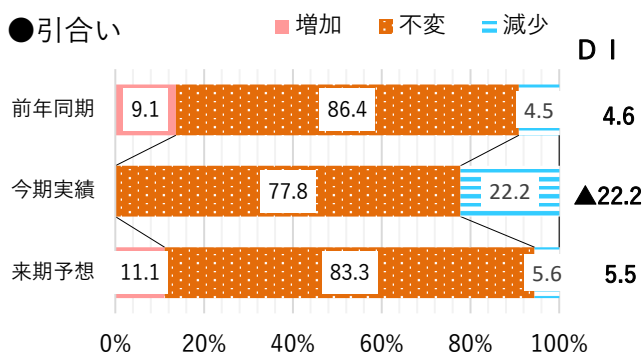
来期の材料仕入単価DIは今期と比べ5.5ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲22.2で、前年同期と比べ26.8ポイント低下しました。

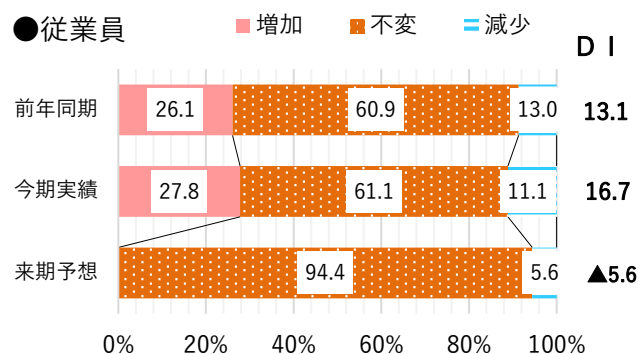
来期の引合いDIは今期と比べ27.7ポイント上昇すると予想しています。



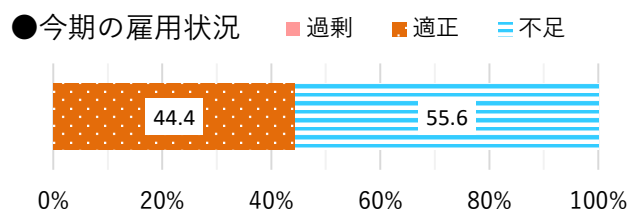
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは16.7で、前年同期と比べ3.6ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ22.3ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は44.4%、不足していると回答した企業の割合は55.6%でした。



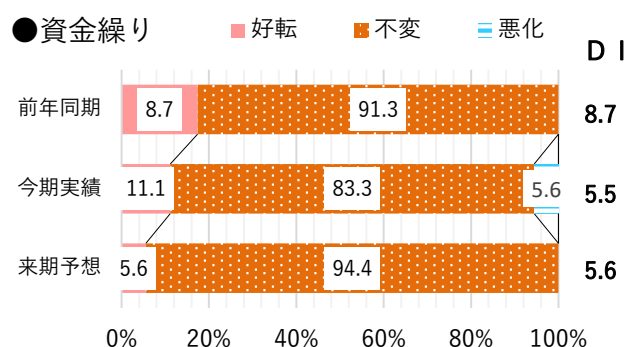
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、33.3%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

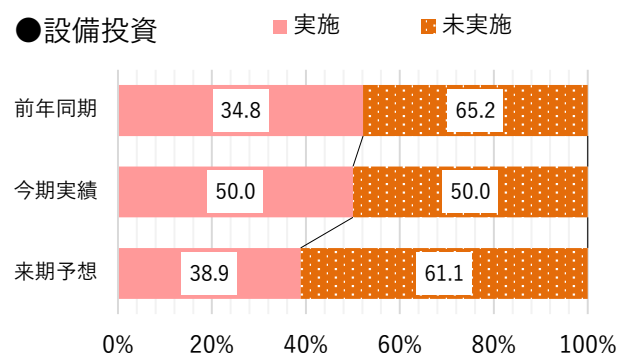
今期の資金繰りDIは5.5で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ0.1ポイント上昇すると予想しています。



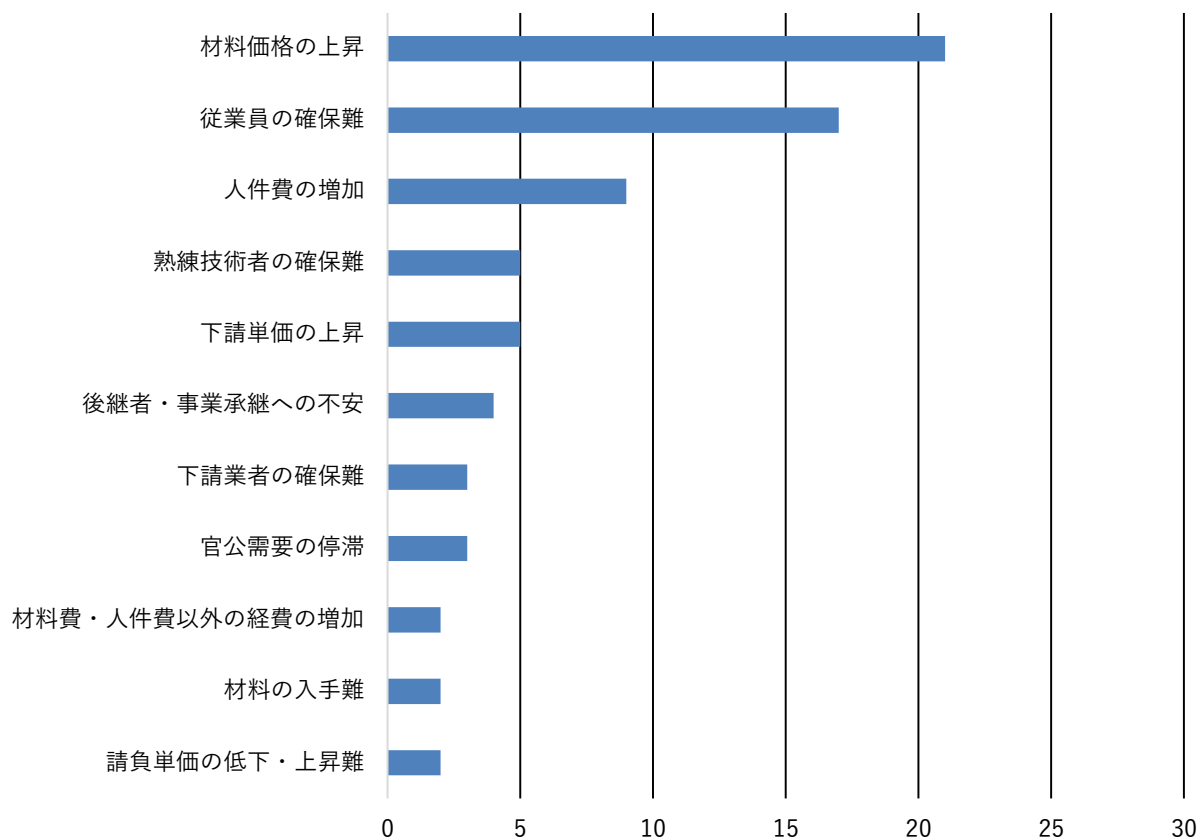
今期の設備投資は50.0%が実施と回答し、前年同期と比べ15.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建設機械」、3位が「O A 機器」の順です。

来期は38.9%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上額が減少し、受注工事状況が悪化し、仕入単価が上昇した。(一般土木工事業)
- 仕入価格が上昇したので、採算が悪化した。(一般土木工事業)
- 工事の受注状況が好転した。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題である。(一般土木工事業)

- 売上額が減少し、受注工事状況が悪化し、仕入単価上昇が上昇した。（職別工事業）
- 人材確保のため、人件費が増加し、採算が悪化した。（造園業）
- 人材不足が続いており、受注機会の損失が多い。（一般管工事業）
- 請負工事量が多く消化できない状況だが業況は好転してる（電気工事業）

[来期の業況について]

- 来期も受注状況が良ければ、採算も変化ないと予測する。（一般土木工事業）
- 仕入価格が上昇し、採算が悪化すると予測する。（一般土木工事業）
- 受注工事が減少すると予測する。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題である。（一般土木工事業）
- 受注工事が減少し、採算は悪化する予測する。（職別工事業）
- 現時点では見通しが立たないので不変とした。（造園業）
- 人材不足は今後も続く予想する。（一般管工事業）
- 請負工事量が多く消化できない状況だが、業況は好転している。（電気工事業）

市内企業倒産状況

2025年4月～6月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は0件、前年同期比減少
負債総額は0円、前年同期比減少

倒産件数		負債総額	
0件		0円	
前年同期比	件数 -2件 (前年同期 2件)	負債 -2000万円 (前年同期 2000万円)	
■4月 なし			
■5月 なし			
■6月 なし			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2025年4月～6月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は70件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は24棟24戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数	
70		24棟24戸	
前年同期比	件数 -2件 (前年同期 72件)	戸数 -17棟-17戸 (前年同期 41棟41戸)	
※変更確認又は変更通知を除く。			